

Cognos® 8 Planning

CONTRIBUTOR FOR MICROSOFT EXCEL®

ユーザー ガイド



COGNOS®

THE NEXT LEVEL OF PERFORMANCE™

製品情報

このドキュメントは Cognos® 8 Planning Version 8.3 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。このドキュメントの最新バージョンに関する情報は、Cognos Global Customer Services Web サイト(<http://support.cognos.com>)で見ることができます。

著作権

Copyright © 2007 Cognos Incorporated.

Portions of Cognos® software products are protected by one or more of the following U.S. Patents: 6,609,123 B1; 6,611,838 B1; 6,662,188 B1; 6,728,697 B2; 6,741,982 B2; 6,763,520 B1; 6,768,995 B2; 6,782,378 B2; 6,847,973 B2; 6,907,428 B2; 6,853,375 B2; 6,986,135 B2; 6,995,768 B2; 7,062,479 B2; 7,072,822 B2; 7,111,007 B2; 7,130,822 B1; 7,155,398 B2; 7,171,425 B2; 7,185,016 B1; 7,213,199 B2.

Cognos および Cognos ロゴ マーク は、米国またはその他の国、あるいはその両方における Cognos Incorporated の商標です。その他記載された各商標または登録商標は、各社に属します。

このドキュメントの内容については正確かつ完全であるように万全を期していますが、誤植や技術的な誤りがあるかもしれません。Cognos はこのドキュメントの使用から生ずるいかなる損害についても責任を負いかねますので、ご了承ください。

このドキュメントには発行日が記載されています。このドキュメントに記載されている事項は、将来予告なしに変更されることがあります。製品およびこのドキュメントについてのあらゆる改良変更は、次版以降に記載されます。

合衆国政府制限付権利。本製品のソフトウェアおよび付属品には制限付権利が与えられています。米国政府による使用、複製、開示については、DFARS 252.227-7013 にある Rights in Technical Data and Computer Software 条項の (C) (1) (ii)、または 48CFR52.227-19 にある Commercial Computer Software – Restricted Rights 条項の (C) (1) および (2) に記載されている制限が適用されます。契約者は Cognos Corporation, 15 Wayside Road, Burlington, MA 01803 です。

本ソフトウェアおよびそれに関連する文書には著作権法によって保護された当社所有の情報が記載されています。すべての著作権は当社に帰属します。本ソフトウェアのリバース エンジニアリングは禁止されています。Cognos Incorporated との書面による事前の合意なしに、本ソフトウェアまたは文書の内容の一部または全部の複製、コピー、転用、検索システムへの保管、あらゆる形式および手段による送信、そして他言語への翻訳はできません。

目次

はじめに 5

第 1 章: Cognos 8 Planning – Contributor 7

- Contributor の基本 7
 - ワークフロー画面 7
 - Contributor ブック 8
 - Contributor Excel ツールバー 10

第 2 章: Contributor for Microsoft Excel 11

- Excel における Contributor データの表示 11
 - ビューの変更 12
 - 複数のワークシートまたはブックの表示 13
 - パフォーマンス向上と非同期ビューのための手動更新オプション 13
 - 保存されたテンプレートを使用したデータ表示 14
- データの入力 14
 - データの検証 15
 - データのインポートとエクスポート 15
- 算出セル、自動按分、保持 16
 - 保持の適用と解除 17
- 保持の適用と解除 17
- 文字列として形式が設定されているセル 17
- 文字列セル内の数値アイテムに対するエラー確認の削除 18
- Contributor データを Excel ゾーンにリンクする 18
- Excel データを Contributor ゾーンにリンクする 19
 - Contributor ゾーン内の複数セルへの入力 20
- Contributor Excel 式を含むセルのデータ更新 20
- クイック コマンド 20
 - コピー コマンド 21
 - データ入力コマンド 21
- 追加情報 23
 - 注釈 23
 - 注釈へのリンクの追加 24
 - ドキュメントの添付 24
- チャートおよびグラフの追加 26
- データの保存 26
 - ローカルに保存されたブックの操作 27
 - テンプレートの保存 28
 - データのリセット 28
- データの印刷 29
- データを承認に回す 29
- データの承認 30

第 3 章: データの取得 31

- ローカル リンク 31
- システム リンク 31
- リンクのステータス 31
- ローカル リンク 31
 - ローカル リンクの作成 32
 - 行または列の名前の変更 34
 - 列の分割 34
 - ディメンションの結合 35
 - ディメンションのマッピング 35

ディメンション内のアイテムの表示	36
ディメンションの削除	37
文字によるディメンション アイテムのフィルタ処理	37
サブstringによるディメンション アイテムのフィルタ処理	37
マッピングされていないディメンション	38
既存のリンク定義の追加	39
リンク定義の共有	39
ローカル リンクの実行	39
クイック ロード	40
システム リンクの実行	40
第 4 章:Excel への Contributor データのエクスポート	41
セクション	42
第 5 章:ベスト プラクティス	43
Excel ブックに保存されたドラフトの操作	43
保存された Excel ブックの開き方とオフライン モード	43
Contributor Web サイトへのログオンとオンライン モード	44
テンプレート、形式、式	44
Contributor セルにリンクする個人の Planning データには別個のワークシートを使用する	44
Excel ベースのテンプレートを Contributor Planning モデルに柔軟に対応させる	45
Contributor セルでカスタム形式を使用する	45
Visual Basic とマクロ	45
安全な Web サイト アクセス	46
第 6 章:トラブルシューティング	47
拡張機能をダウンロードできない	47
[データの取得]のトラブルシューティング	47
ターゲット ディメンションのアイテムにアクセスできない	47
ターゲット キューブのディメンション アイテムにアクセスできない	47
Contributor から Contributor へのロードに余分なソース ディメンションがある	47
ターゲット ディメンションからアイテムが削除された	48
余分のターゲット ディメンションがある	48
Contributor から Contributor へのロードにおいて不足しているソース ディメンションがある	48
Contributor から Contributor へのロードに追加のソース ディメンションある	48
ターゲット キューブが読み取り専用である	48
Excel用エクスポートのトラブルシューティング	48
構造差異	49
ラミネーション	49
用語集	51
索引	55

はじめに

このマニュアルは Cognos 8 Planning – Contributor for Microsoft Excel® の使用にあたって参照してください。このマニュアルでは、Cognos 8 Planning – Contributor for Microsoft Excel を使用してプランの現在の状況を確認する方法と、データの入力および承認方法について説明します。

Cognos 8 Planning は、プラン策定、予算編成、予測の業務を共同作業で安全に行うための製品です。主要なコンポーネントとして、Analyst と Contributor があります。

Cognos 8 Planning – Analyst

Analyst は、財務の専門家がビジネス モデルを定義するために使用する柔軟性の高いツールです。定義されるモデルには、計画、予算計上、予測の業務に必要な要素とコンテンツが格納され、Cognos 8 Planning – Contributor の Web ベースのアーキテクチャを使用してマネージャに配布できます。

Cognos 8 Planning – Contributor

Contributor を使用すれば、データ収集とワークフロー管理の作業を合理化できます。また、スプレッドシートのみに基づいた計画システムで発生しがちな、エラー、バージョン管理、適時性の問題もなくなります。ユーザーは Web や Microsoft Excel® のシンプルなインターフェイスを使用して、情報を同時に提出できるようになります。イントラネットや安全なインターネット接続を使用することで、評価する必要がある情報のみをユーザーは評価し、データの入力も許可された場所にものみ行えます。

本製品の使用方法に関する詳細については、Cognos Global Customer Services Web サイト(<http://support.cognos.com>)を参照してください。

Cognos 8 Planning のベスト プラクティス

Cognos Innovation Center™ for Performance Management ではフォーラムと Performance Blueprints が提供されており、財務および業績管理の問題に取り組む上での新しいアイデアやソリューションを検索できるようになっています。Blueprints とは、あらかじめ定義されたデータ モデル、プロセス モデル、ポリシー モデルのことで、Cognos のお客様や Cognos Innovation Center で得られたベスト プラクティスの情報が組み込まれています。これらの Blueprints は、既存のお客様、プラチナ パートナー、ゴールド パートナーに対しては無料で提供されています。Cognos Innovation Center や Performance Blueprints の詳細については、<http://www.cognos.com/innovationcenter/> を参照してください。

対象読者

このマニュアルを使用するには、Cognos 8 Planning の Contributor および Analyst の知識が必要です。

関連マニュアル

本製品には、ユーザー ガイド、ご利用の手引き、新機能ガイド、Readme など、ユーザーの幅広いニーズに合わせたマニュアルが付属しています。次のマニュアルには関連する情報が記載されており、このマニュアルでも参照先として取り上げられることがあります。

注: マニュアルをオンラインで使用する場合、次の表にある個々のリンクをクリックすると、“ページが見つかりません”などの Web ページが表示される場合があります。利用できるマニュアルは、インストールの内容や言語設定によって異なります。リンクを利用できない場合は、Cognos Global Customer Services Web サイト(<http://support.cognos.com>)でマニュアルにアクセスできます。ログイン認証情報は、管理者または support.america@cognos.com に問い合わせてください。

マニュアル	説明
Contributor for Microsoft Excel® Installation Guide	Contributor for Microsoft Excel® のインストール
Contributor ブラウザ ユーザー ガイド	Cognos 8 Planning – Contributor Web クライアントの使用方法

情報の入手方法

製品マニュアルの最新版を入手するには、Cognos Global Customer Services Web サイト(<http://support.cognos.com>)にアクセスします。このサイトでは各言語版のものもすべて提供されています。Documentation リンクをクリックすると、マニュアル ガイドを入手できます。Knowledge Base リンクをクリックすると、すべてのマニュアル、技術資料、およびマルチメディア資料を入手できます。

Cognos 製品で[ヘルプ]メニューを選択するか[ヘルプ]ボタンを押すと、製品マニュアルをオンラインヘルプの形式で参照できます。また、Cognos Global Customer Services Web サイトからマニュアルを PDF 形式でダウンロードすることもできます。

さらに、Cognos の製品 CD には、製品の Readme ファイルとインストール ガイドが PDF 形式で収録されています。

サポート窓口

本製品の使用方法や技術的なサポートの詳細については、Cognos Global Customer Services Web サイト(<http://support.cognos.com>)を参照してください。このサイトでは、製品情報、サービス、ユーザーフォーラム、製品マニュアルおよびマルチメディア教材の知識ベースが用意されています。状況の説明、サポート担当者への連絡、フィードバックなどは [Contact Us] リンクを、教育研修については [Training] リンクをクリックしてください。

著作権資料の複製について

任意のページ、セクション、またはブック全体を印刷できます。Cognos ではユーザに対し、Cognos ソフトウェアの使用、保守管理、組織内でのトレーニングの目的に限り、弊社の著作権資料を、印刷物または電子形式で使用、コピー、複製する権利を付与しています。この権利は非独占的なものであり、第三者にこの権利を譲渡することはできません。

第 1 章: Cognos 8 Planning – Contributor

Contributor を使用すれば、データ収集とワークフロー管理の作業を合理化できます。プラン策定作業が一元的に管理されていない場合によく見られる、エラー、バージョン管理、適時性の問題もなくなります。プラン策定作業、さまざまな部門や地域のマネージャおよび担当者からのデータ収集、さらには世界中の再販業者、納入業者、顧客からのデータ収集に組織内の何千人もの人々が簡単に参加できるようになります。Contributor のパフォーマンスはエンドユーザー用に最適化されているため、多数のユーザーが同時に作業できます。クライアントでは必要なデータのみをサーバーに要求し、変更されたデータのみを保存します。複雑な計算はクライアントで実行されるため、応答が速く、使用率が高いときでもサーバーに対する不必要なトラフィックが発生しません。

イントラネットや安全なインターネット接続を使用することで、自分は評価する必要がある情報のみを評価すればよく、データの入力も許可された場所のみに行えます。

Contributor で使用される用語については、「用語集」を参照してください。

Contributor の基本

このセクションでは、Contributor にログオンしたときに表示される画面について説明します。また、Contributor for Excel を使用するために必要な情報も提供します。




ワークフロー画面






Contributor にログオンするとワークフロー画面が表示されます。この画面は、ツリー、表、e.List アイテムで構成されています。

ツリー

画面の左側のツリーには、作成を担当する分野（[作成]）と承認を担当する分野（[承認]）が階層形式で表示されます。権限に応じて、[作成]と[承認]のどちらかまたは両方が表示されます。ツリーのアイテムをクリックすると、アイテムの詳細が示された表が画面の右側に表示されます。


ツリーの各アイテムには、データの現在のステータスを示すアイコンがあります。


アイコン	ステータスと説明
	未開始 作成アイテムが編集用に開かれている可能性があります、変更はデータに保存されていません。
	進行中 データは保存されましたが、提出されていません。このステータスであれば、データを変更して提出できます。
	ロック中 データが提出され、e.List アイテムがロックされました。このステータスの場合は、データの表示のみが可能です。e.List アイテムが却下されると、ステータスが[進行中]に戻ります。


アイコン ステータスと説明	
	<p>未完了</p> <p>このアイテムに属する少なくとも 1 つのアイテムが[未開始]になっており、他の少なくとも 1 つのアイテムが、[進行中]、[ロック中]、[完了]のいずれかのステータスになっています。このステータスのデータは集計済みです。[未完了]ステータスが適用されるのは、承認対象の e.List アイテムのみです。</p>
	<p>完了</p> <p>承認対象の e.List アイテムに所属するすべての e.List アイテムがロックされています。階層の次のレベルにデータを提出する準備が完了しています。</p>
	<p>現在編集中または注釈入力中</p> <p>e.List アイテムが、編集または注釈用に開かれました。ユーザーがグリッドを閉じるか、e.List アイテムを提出すると、編集セッションが終了します。</p>
	<p>期限切れ</p> <p>アプリケーションでの変更を反映するために e.List アイテムの再構成が必要か、またはシステム データのインポートが必要です。</p>
	<p>現在編集中または注釈入力中で、かつ期限切れ</p>

表

画面の右側の表には、アイテムのワークフロー ステータス、現在の所有者、承認者、アイテムの最終変更日時などの情報が表示されます。

e.List にドキュメントが添付されている場合は、そのアイテムの横にアイコン  が表示されます。

Contributor for Excel がインストールおよび設定されている場合、[Excel] ボタン  をクリックすると、Contributor for Excel を使って e.List アイテムを開くことができます。

e.List アイテムの承認者であれば、この画面で[却下]ボタン  を押せば、提出されたアイテムを却下できます。

e.List アイテム

ツリーや表のアイテムは e.List アイテムと呼ばれています。たとえば、“Sales Division”、“Marketing Division”、“Development Division”、“Cost Center 123”などはその典型的な例です。e.List アイテムの名前は、アプリケーションの設計によって決まります。

複数の e.List アイテムを同時に開くことができます。マルチ e.List アイテム ビューがある場合、表の最初の行に“(すべて)”と表示されるので見分けられます。マルチ e.List アイテム ビューでは、コンピュータにダウンロードされるデータ量が多くなるため、標準の e.List アイテム ビューを開く場合よりも時間がかかる場合があります。このオプションは使用できない場合もあります。詳細については、管理者に連絡してください。

Contributor ブック

プラン データの作業を開始するためには、表で e.List アイテムの名前をクリックして、そのアイテムを開きます (11 ページ)。e.List アイテムを開くと、ユーザーの権限やデータのステータスに基づいて、データの表示または入力が可能になります。

Contributor モデルの各キューブが、1 つの Excel ブックの個別のワークシートで開かれます。Contributor モデルを新規の Excel ブックに挿入するか、または既存のブックに挿入するか選択できます。

ブックを開くことができるのは、Contributor for Excel をインストールしているユーザーのみです。ブックがパスワードで保護されている場合は、ユーザーもパスワードの入力が必要です。ブックをローカルに保存して作業することも可能です (27 ページ)。他のユーザーとブックを共有する場合は、同じバージョンの Excel がインストールされている必要があります。

ブックには、Contributor ゾーンと Excel ゾーンの 2 つのゾーンがあります。

Excel で Contributor セッションを開くためには、使用しているコンピュータに Contributor for Excel がインストールされている必要があります。詳細については、Cognos 8 Planning『Contributor for Microsoft Excel® Installation Guide』を参照してください。

互換性のない機能

Contributor for Excel では、Excel の次の機能はサポートされていません。

- 変更の履歴
- すべてのオブジェクトの非表示
- ゴール シーク
- ブックおよびワークシートの保護
- オートフィルタ
- 行や列の非表示およびグループ化
- Excel グラフのドラッグによるセル値の変更

Contributor 対応のワークシートやブックで問題が発生するのを防ぐため、これらの機能は使用しないでください。


Contributor ゾーン

Contributor ゾーン内のセルは、Contributor の規則に基づいて動作します (20 ページ)。たとえば、セルに「10K」と入力すると、Excel セルでは「10K」のままですが、Contributor セルでは「10,000」に変わります。Contributor ゾーンのセルで数値が予測されている場合、文字列は入力できません。数値形式が指定されている Contributor セルに文字列を入力すると、セルは最後に入力された数値に戻ります。

Contributor ゾーンのデータには、必ず列見出しと行見出しが表示されます。最初は、Contributor ゾーンで編集可能なデータの背景色は白で、読み取り専用データの背景色は灰色になっています。別のユーザーが作成したブックやテンプレートを使用する場合は、背景色がすでに変更されている場合があります。作業途中でこれらの背景色を変更し、ブックを保存してその変更を維持することができます。

データを編集できるのは、ワークフロー ステータスが[未開始]または[進行中]の場合に限りです。ワークフロー ステータスは、アイコンを見ると確認できます。現在の所有者でないユーザーには、データは読み取り専用のビューで開きます。

[現在の所有者]ではない場合に編集を開始するには、次の手順を実行します。

- [所有権の取得]  をクリックします。

あるセルが Contributor セルなのか Excel セルなのかを判断したい場合は、そのセルの行見出しと列見出しをクリックします。セルが次の条件を満たしている場合、そのセルは Contributor ゾーンの一部です。

- セルの上にある列見出し、およびセルの左にある行見出しの式が、“=ContributorCache”で始まっている
- 見出しが他のすべての Contributor ゾーンの見出しと同じ行および同じ列に連続して並んでいる

重要:Excel の[編集]メニューの[削除]コマンドを使用して Contributor ゾーンの構造を変更しないでください。このコマンドを使用すると、次のような現象が起こります。

- 削除したすべての行と列が、入手可能な最終データによって復元される。
- セルのグループを削除すると、データが削除されたセルに移動する。移動したデータは、削除されたセルに対する入手可能な最終データとして使用されます。移動および削除されたセルは、入手可能な最終データによって正しい位置に復元されます。

Excel ゾーン







Excel ゾーン内のセルは、Excel の規則に基づいて動作します。Excel ゾーンを使用して、グラフを挿入したり(26 ページ)、Contributor ゾーンの数値との間をリンクする計算を挿入したり(18 ページ)、Excel で許可される他のさまざまな操作を実行したりできます。詳細については、Microsoft Excel のマニュアルを参照してください。

Excel の行や列を、Contributor ゾーンの間や列の間に挿入できます。挿入されたセルは、Excel ゾーンの一部となります。Contributor データや Contributor セルを含まないワークシートも、Excel ゾーンの一部です。

Contributor データを再配置して異なるディメンションを表示すると、Contributor データを含むワークシートで Excel セルのデータが一時的に非表示になります(12 ページ)。

Contributor Excel ツールバー

Contributor Excel 式を含むセルが選択されている場合、Contributor Excel ツールバーには、Contributor Excel 式が表示され、次の処理を実行できます。

アイコン	説明
	選択した Contributor Excel 式を実行
	このキューブ内のすべての Contributor Excel 式を実行
	すべての Contributor Excel 式を実行
	選択した Contributor Excel 式を削除
	このキューブ内のすべての Contributor Excel 式を削除
	すべての Contributor Excel 式を削除

第 2 章: Contributor for Microsoft Excel

Contributor for Excel を使用すると、Excel を使用して Contributor データの表示や編集ができるため、Excel の形式設定機能と Contributor のリンク機能の利点を享受できます。このアドインにより次のような機能が実行できます。

- Contributor データを基に作成したグラフ (棒グラフなど) を追加する
- Contributor データを基にした動的な計算を作成する
- Excel で計算を作成し、Contributor セルにリンクする

作成した計算を更新するときに、Contributor セルの値を更新するかどうかを選択できます。

- ブックをテンプレートとして保存することで、カスタムの計算と形式を再利用する
- ワークシートのサイズを調整し、ページに表示されるデータ範囲を変更する
- データを Excel ブックとして保存し、ネットワークに接続せずにローカルで作業する

Excel における Contributor データの表示

Contributor アプリケーションにアクセスするためには、サーバー URL (Web サイトのアドレス) が必要です。アドレスがわからない場合は、管理者に連絡してください。

ライブ プラン データを操作するための手順

1. Excel で Contributor メニューをクリックし、[ログオン]をクリックします。
2. [サーバー URL]ボックスに、管理者から通知されたアドレスを入力します。たとえば、次のように入力します。

`http://<サーバー名>/Cognos8`

3. [ログオン]をクリックします。
4. Cognos アプリケーション用の有効なユーザー ID とパスワードを入力します。
5. アプリケーションのリストから選択するように求めるプロンプトが表示されたら、必要なアプリケーションをクリックします。

ワークフロー画面が開き、そのユーザーが責任を持つ全領域の概要がグラフィカル表示され、データのステータスも表示されます。

ヒント: アイテムの詳細を表示するには、青い下矢印をクリックすると、詳細パネルが表示されます。詳細パネルを閉じるには、いずれかの矢印をクリックします。

ツリー内のユーザーに電子メールを送信するには、[所有者]または[承認者]のセルか詳細パネルで、送信先のユーザー名をクリックします。

6. 画面の左側のツリーでアイテムをクリックし、表示されたテーブルでアイテムの名前をクリックします。アイテムが Excel ブックに表示されます。

ヒント:Excel のインターフェイスからワークフロー画面に戻るには、[Contributor]メニューの[ワークフロー]をクリックします。ワークフロー画面からモデルの他の部分を開く場合は、まず現在作業しているブックを保存して閉じてください。

以前に保存したブックを操作するための手順

1. データが含まれている Microsoft Excel ブック(.xls)を開きます。
2. プロンプトが表示された場合は、ブックのパスワードを入力します。
3. サーバーにログオンしていないときにデータを保存または提出する場合は、[Contributor]メニューの[ログオン]をクリックします。

Contributor ネットワークに接続できるのは、認可されたアクセス権を持つユーザーのみです。

ビューの変更

Contributor データのビューは変更が可能です。

行と列のアイテムの入れ替え

行と列を入れ替えると、ワークシート上の式の範囲も変換されます。HLOOKUP(水平検索)やVLOOKUP(垂直検索)など、方向依存の Excel 関数は、ビューの入れ替えや再配置によって無効になる可能性があるため、Contributor データが含まれているワークシートでは使用しないようにします。

現在ビューに表示されている行と列を入れ替える手順は次のとおりです。

- [Contributor]メニューの[行と列の入れ替え]をクリックします。

追加したデータと形式が、Excel の[貼り付け]の[行列を入れ替える]コマンドの規則に従って入れ替わります。Contributor ゾーンに挿入した行や列も入れ替わります。

行と列の変更

行または列に別のディメンションが表示されるように方向を変更する手順は次のとおりです。

- [ビューの再配置]をクリックし、行または列に表示するアイテムを選択して[OK]をクリックします。

方向を変更すると、追加したデータや形式がビューに表示されなくなります。作成時の方向に戻すと、形式とデータが再び表示されます。

Contributor のページ ディメンションの変更

ワークシートに表示される Contributor のページ ディメンションを変更する手順は次のとおりです。

- [Contributor Page Selection]ツールバーのリストで、表示するページ ディメンションをクリックします。

方向は変わっていないため、追加したデータや形式は引き続き表示されています。

ゼロしか含まれていないページ、行、列の非表示

ゼロしか含まれていないページ、行、列をワークシートで非表示にする手順は次のとおりです。

- [ゼロ消去]をクリックし、[ゼロを消去 - ページ]、[ゼロを消去 - 行]、[ゼロを消去 - 列]のいずれかをクリックします。

ページを非表示にすると、アプリケーションの動作が遅くなる場合があります。

複数のワークシートまたはブックの表示

Contributor for Excel を使用すると、Excel の標準的な操作方法で複数のワークシートやブックを同じ画面に表示できます。たとえば、同じ画面上に“Staff Salaries”ワークシートと“Total Expenses”ワークシートを表示し、“Staff Salaries”に変更を加えたときに、その変更が“Total Expenses”にどのように影響するかを確認できます。

同じ画面に複数のワークシートを表示した場合、[Contributor Page Selection] ツールバーのページ ディメンション リストには、アクティブなワークシートのディメンションが表示されます。

パフォーマンス向上と非同期ビューのための手動更新オプション

各 Contributor キューブはそれぞれ別のワークシートに配置されます。データを入力したりデータのビューを変更すると、Contributor for Excel によって次のタスクが自動的に行われます。

- Contributor プランのすべてのデータを常に更新する。
- すべての Contributor キューブの共有ページ ディメンションを同期する。たとえば画面上で 2 つのキューブを表示している場合、Contributor for Excel によってページ ディメンションが自動的に同期されます。アクティブのキューブで“Budget 2”を表示している場合、もう一方のキューブでも“Budget 2”が表示されます。アクティブのキューブで“Budget 1”に切り替えた場合、もう一方のキューブも“Budget 1”に切り替わります。
- 現在画面に表示されていないワークシート上のセルを更新する。


パフォーマンスの向上を図る場合や非同期ビューを可能にするには、ブックやテンプレートの上記の設定のうち 2 番目と 3 番目を変更し、自動ではなく手動で処理を実行するようにします。ユーザーが処理の実行を選択するまで自動処理が発生しないため、パフォーマンスが向上します。

更新オプションを手動に設定するための手順

1. [更新オプション]をクリックします。
2. [共通ページ ディメンションを手動で同期]または[画面外の標準 Excel の Contributor データへの参照を手動で更新]オプションを選択します。


ヒント:これらのオプションを選択解除すると設定が自動に戻ります。

両方の更新オプションを手動で実行するための手順

- [更新/ページの同期]ボタン  をクリックします。

これらのタスクを実行しなかった場合の結果

これらのタスクを手動に設定したにもかかわらず実行しなかった場合、次のような 2 つの結果が生じます。

- 画面外の標準 Excel の Contributor データへの参照を手動で更新。
画面外のワークシート上にある、標準 Excel の Contributor データへの参照は、Contributor の[更新オプション]ツールバーの[更新/ページの同期]ボタン  を選択するまで更新されません。
ヒント:Contributor プランのデータを直接参照する式、つまり Contributor の[コピー先の位置]コマンドや[コピー先の相対位置]コマンドを使用して作成された式は、常に自動で更新されます。
- 共通ページ ディメンションを手動で同期。
現在使用している共通ディメンションが表示されるように他の Contributor キューブが同期されることはありません。

ヒント:[共通ページディメンションを手動で同期]の設定を有効にして、画面上で複数のキューブを表示したときに、別のキューブで異なる(非同期の)ディメンションが表示されるようにすることも可能です(13 ページ)。たとえば画面上で 2 つのキューブを表示しているときに、Contributor for Excel によってページディメンションが自動的に同期されないようにします。このようにすると、アクティブのキューブで“Budget 2”を表示し、もう一方のキューブでは引き続き“Budget 1”を表示することができます。

ブックまたはテンプレートをローカルに保存したとき、デフォルトの更新オプションに対して加えた変更はブック内に保存されます。

保存されたテンプレートを使用したデータ表示

保存されたテンプレートから 1 つ以上の e.List アイテムを開き、そのテンプレートに保存された形式や計算を使用してデータを表示することができます。マルチ e.List アイテム ビューを開いた場合、テンプレート内のカスタム式の計算にはアクティブな e.List アイテムが使用されます。

テンプレートの詳細については、「[テンプレートの保存](#)」(28 ページ)を参照してください。

手順

1. 保存されたテンプレートを Excel で開きます。
Contributor へのログオンを求めるプロンプトが表示されます。
2. [ログオン]をクリックします。
3. ユーザー ID とパスワードを入力します。
4. アプリケーションのリストから選択するように求めるプロンプトが表示されたら、必要なアプリケーションをクリックします。
5. テーブルで e.List アイテムを開きます。

保存されたテンプレートを使用してアイテムが開かれます。

マルチ e.List アイテム ビューに限り、e.List のページ ディメンションが列または行になるようビューを再配置すると、その e.List にリンクされているテンプレート内のカスタム式が一時的に未定義の状態になります。その e.List をページとする配置に戻すと、式に再びデータが入力されます。

データの入力

Contributor ゾーンの外でデータを入力する場合は、新しいワークシートを挿入することを推奨します。

Contributor ゾーンでは、データを入力、切り取り、コピー、貼り付け、削除することができます。複数のセルに貼り付ける際には、貼り付け先のセルが、貼り付けるデータに対応している必要があります。たとえば、日付が入るセルに数値を貼り付けることはできません。

注:合計または小計を含む Contributor セルに、式を貼り付けることはできません。

選択した貼り付け先が、貼り付けるデータ範囲の多重的な繰り返しとなっている場合、選択した貼り付け先に合わせてデータが複製されます。

必要なデータやセルを右クリックし、メニューから適切なコマンドを選択すると、コマンドにすばやくアクセスできます。Contributor では、セルベースのクイック コマンド(20 ページ)も使用できます。

Contributor データを含むワークシートでは、現在表示しているページ ディメンションを示すリストが[Contributor Page Selection]ツールバーに表示されます。たとえば、予算の別バージョンや事業部門がリストに表示される場合もあります。


ヒント:別のページを表示するには、ページ ディメンションの右側の下矢印をクリックし、リストから別のページ ディメンションを選択します。

データの検証

データの検証とは、ビジネス規則およびポリシーを適用することで目標に合わせてプランを調整し、データの正確さを継続的に保証するプロセスのことです。ここで適用される規則の定義は管理者が Contributor 管理コンソールで行い、これがモデル内にある 1 つのキューブの、一定の範囲のセルに対して適用される唯一のデータ入力要件となります。検証規則は操作とも関連付けられます。アイテム作成者による操作が、入力、出力、ターゲット要件を確実に満たすようにすることにより、有効なデータのみが受理されるようになります。検証規則は、データ型(整数や文字列)や形式(日付)といった基本的なチェックから、非常に複雑なビジネス ロジックを使用して、提出されたデータが有効かどうかを検証するものまで、多岐にわたります。

[Contributor]メニューから[データの検証]コマンドを使用するか、ツールバーの[データの検証]ボタンをクリックすることで、プランのデータ整合性をいつでもチェックできます。ビジネス要件は変化することがあるため、定期的にデータ検証を行うことを推奨します。無効な値がある場合、現行の規則にかなうように情報を入力するのに役立つフィードバックが表示されます。

手順

1. 必要に応じて、新しいデータを入力するか、または既存のデータを変更します。
2. データの入力や変更が現行のビジネス規則やデータ形式の制限にかなっているかどうかを検証するには、[Contributor]メニューで[データの検証]をクリックするか、[Contributor]ツールバーの[データの検証]ボタン  をクリックします。
3. エラーが検出された場合、[検証エラー]ダイアログ ボックスでエラーをダブルクリックすると、ワークシート内のエラーがあった場所を確認できます。

ポインタは、規則セットの最初の規則に対する違反があった最初のセルに表示されます。

解決されないままのエラーがあると、プランの保存や提出ができない場合があります。エラー メッセージに基づいてエラーを解決することができない場合は、管理者に連絡してください。

4. 必要な変更を加えます。

データのインポートとエクスポート

データをロードし、テキスト ファイルにデータをエクスポートしたり、テキスト ファイルからデータをエクスポートしたりすることができます。管理者が[データの取得]を有効にしている場合は、外部ソースから Contributor にデータをロードし、Contributor 内でデータをコピーできます。

テキスト ファイルからのインポート

テキスト ファイルを現在のタブにロードできます。ロードするファイルは、Contributor からタブ区切りファイルとしてエクスポートされたファイルとフォーマットが同じでなければなりません。

手順

- タブを右クリックし、[Contributor]、[ファイルからロード]の順にクリックします。

テキスト ファイルへのエクスポート

現在のタブのデータを、タブ区切りテキスト ファイルに保存できます。

手順

- タブを右クリックし、[Contributor]、[ファイルに保存]の順にクリックします。

データの取得

[データの取得]が有効になっている場合、この拡張機能を使用して、他の Contributor キューブまたは外部ソースから Contributor にデータをロードできます。[Contributor]、[データの取得]の順にクリックします(使用可能な場合)。サーバーに接続しないで作業している場合、このオプションは使用できません。

算出セル、自動按分、保持

算出セルにデータを入力して Enter キーを押すと、その計算の要素となっている他のセルのデータが自動的に再計算されます。セルに入っているのが計算である場合、そのセルに表示される数字は太字になります。値が入っていない数値データセルにはゼロが表示されます。表示されているゼロが太字の場合、そのセルは算出セルです。

算出セルにはビジネス ロジックや検証規則を関連付けることができます。規則にかなっていない値を算出セルに入力すると、そのプランを提出または保存しようとするときに警告メッセージが表示されます。この場合、e.List アイテムを次の承認者に提出したり、サーバーにプランを保存したりするには、問題のあるデータを修正する必要があります。詳細については、[「データの検証」\(15 ページ\)](#)を参照してください。

合計は通常、その合計計算を構成するセルに入っている元の値に基づいて按分されます。

たとえば、あるセルに入る値が“1 月”から“12 月”までの合計であるとします。“合計”セルに合計値を入力して Enter キーを押すと、その合計値は自動的に 12 か月に振り分けられます。この機能のことを自動按分といいます。

“合計”セルに「24000」と入力して Enter キーを押した場合、月ごとの合計は 2000 になります。

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
米国	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	24000

合計を「30000」に変更して Enter キーを押すと、月ごとの合計は 2500 になります。

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
米国	2500	2500	2500	2500	2500	2500	2500	2500	2500	2500	2500	2500	30000

6 月の値を「3000」に変更して Enter キーを押し、年間合計のセルを「40000」に変更して Enter キーを押すと、6 月の合計は 3934 になり、他の月は 3279 になります。月ごとの合計は、セルに入っている値に基づいて比例按分するかたちで変更されました。

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
米国	3279	3279	3279	3279	3279	3934	3279	3279	3279	3279	3279	3279	40000

しかし、6 月の値を「3000」に変更して Enter キーは押さずにおき、年間合計のセルを「40000」に変更して Enter キーを押すと、6 月の合計は 3000 のままになり、他の月は 3364 になります。

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
米国	3364	3364	3364	3364	3364	3000	3364	3364	3364	3364	3364	3364	40000

注:Enter キーを押したときではなくカーソルがセルから移動したときにデータを再計算するよう管理者がオプションを設定している場合は、値を明示的に保持する必要があります。

保持の適用と解除

セルに対して保持を適用し、セルを自動按分の対象外にすることができます。保持されているセルは水色で表示されます。

保持を適用する手順

- 保持を適用するには、対象となるセルを右クリックし、[保持]をクリックします。

保持を解除する手順

- 保持されているセルを解除するには、そのセルを右クリックし、[解除]をクリックします。
保持の解除は、現在のページから他に移動するときに適用されます。

保持の適用と解除

セルに保持を適用したり、保持を解除したりできます。保持の解除は、現在のページから他に移動するときに適用されます。

セルに保持を適用する場合、背景色は変更できません。背景色は、保持されていた元の色に戻されます。

読み取り専用セルの色(デフォルトでは灰色)は変更可能ですが、白または保持適用セルに使用されている色(シアン)は使用できません。

保持を適用する手順

- 保持を適用するには、対象となるセルを右クリックし、[Contributor]、[保持]の順にクリックします。

保持を解除する手順

- 保持を解除するには、セルを右クリックし、[Contributor]、[解除]の順にクリックします。

文字列として形式が設定されているセル

文字列として形式が設定されている Contributor セルで数値アイテムを入力または選択すると、警告メッセージが表示されることがあります。

たとえば、月のリストで合計の“2003”を選択したとします。値に適切なセル調整が加えられるよう、このセルは文字列として形式が設定されています。

このメッセージを無視すると、セルに注釈マーカーが表示されます。

文字列セル内の数値アイテムに対するエラー確認の削除

文字列セル内の数値アイテムに対するエラー確認を削除できます。

手順

- 1. エラー メッセージ ボックスで[エラー チェック オプション]をクリックします。
- 2. [文字列として保存されている数値]チェック ボックスをオフにして、[OK]をクリックします。

Contributor データを Excel ゾーンにリンクする

式を使用して、Contributor ゾーンのプランのデータを Excel ゾーンのセルにリンクできます。Contributor データが変更されると、リンクされている Excel セルのデータが Excel の計算オプションに従い手動または自動で変更されます。Excel の計算オプションについては、Microsoft Excel のマニュアルを参照してください。

Contributor では Contributor の計算エンジン内に基礎となるプラン データが保持されます。データが 2 次元でない限り、各 Excel ワークシートの画面には基礎データの一部のみが表示されることとなります。Excel ワークシートに表示されるキューブでビューの再配置を行うと、ワークシートに現在表示されているデータが Contributor によって変更されます。式を作成する際、式のリンク先を、データの最新ビューを表示している Contributor ゾーンの Excel セルにするのか、Contributor の計算エンジン内の基礎値にするのかを選択できます。Excel セルにリンクした場合は標準の Microsoft Excel 式が使用されます。このリンク方法は、ビューの再配置によるデータ変更に伴って式が変更されるようにする場合に適しています。Contributor の基礎データにリンクした場合はカスタム式が使用されます。このリンク方法は、データが画面上の Excel セルに表示されているのか表示されていないのかに関係なく、計算を特定のプラン データに動的にリンクさせる場合に適しています。

式を作成する際、式を Excel 表示または Contributor の基礎値のいずれかにリンクできます。

Excel ゾーンに Contributor データを基にする式を作成する場合は、Contributor ゾーンのセルが含まれていない別のワークシートに式をコピーすることを推奨します。

データを Excel 内でどのように処理するか、その目的によってデータのコピー方法が異なります。

目的	操作	例
Contributor の値が変更されても、コピーした値が Excel セル内で変更されないようにする。	Excel 標準のコピーおよび貼り付け機能を使用する。	5,000
Contributor プラン データのビューを再配置したときに、Excel セル内の値が変更されるようにする。	Excel 標準の式作成機能を使用する。	=B2 = 'Income Statement'!B2

目的	操作	例
Contributor の基礎値が変更されたときのみ Excel セル内の値が変更されるようにし、Contributor プラン データのビューを再配置したときには変更されないようにする。	<p>次の手順を実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> Contributor セルを右クリックします。 [Contributor]、[コピー先の位置]の順にクリックします。 コピーしたデータを Excel ゾーン内のセルに貼り付けます。 	=CCell("Income Statement", "B2 Profit-center", "Months", "Mar-03", "Versions", "Budget Version 1", "Income Statement", "Interest Expense")
<p>マルチ e.List アイテムビューに表示された e.List アイテムの再配置を行ったときに、Excel セル内の値が変更されるようにする。</p> <p>注:アプリケーションでマルチ e.List アイテムビューが使用できる場合にのみ利用できるオプションです。詳細については、管理者に連絡してください。</p>	<p>次の手順を実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> マルチ e.List アイテムビューのデータを開きます。 Contributor セルを右クリックします。 [Contributor]、[コピー先の相対位置]の順にクリックします。 コピーしたデータを Excel ゾーン内のセルに貼り付けます。 <p>ヒント:ワークフロー画面上のテーブルに“(すべて)”という名前のアイテムが存在する場合、マルチ e.List アイテムビューを利用できます。</p>	=CCell("Income Statement", "", "Months", "Mar-03", "Versions", "Budget Version 1", "Income Statement", "Interest Expense")

Excel データを Contributor ゾーンにリンクする

Excel ゾーンのデータに基づいて Contributor ゾーンに式を作成し、データと計算を Contributor プランに直接リンクすることができます。Excel ゾーンのデータが変更されたときに、リンク先の Contributor セル内の式データを更新するかどうかを選択できます ([20 ページ](#))。

注:Contributor Excel 式に含まれる値はサーバーに保存または提出できますが、式自体はローカルの Excel ブックにしか保存できません。

手順

- Contributor セルに式合計のセル参照を入力します。

たとえば、“Sheet1”という名前のワークシートのセル B10 の式を参照する場合は次のように入力します。

```
=Sheet1!B10
```


[Contributor Excel 式]ツールバーのパネルに式が表示されます(参照用の表示)。

Contributor ゾーン内の複数セルへの入力


Contributor ゾーン内の複数のセルにデータを入力できます。たとえば、Excel ゾーンのセル O29 から O32 を合計する相対式を複数の Contributor セルにコピーできます。

注: 式を多数追加すると、保存したブックを開くときに時間がかかります。

手順

1. Contributor セルに式合計のセル参照を入力します。
2. [Contributor Excel 式を編集]ボタンをクリックします。この操作により、[Contributor Excel 式]ツールバーに Contributor 式が挿入されます .
3. コピーする式が含まれているセルをクリックし、[コピー]をクリックします。
4. コピー先のセルを強調表示し、[編集]、[形式を選択して貼り付け]、[数式]の順にクリックします。

Excel ゾーンのデータが変更されたときに、Contributor セル内のデータを更新するかどうかを選択できます (20 ページ)。


ヒント: Contributor Excel 式を削除するには、Contributor セルを選択して[この Contributor Excel 式を削除]ボタンをクリックします。また、[Contributor Excel 式]ツールバー ボタンを使用して、キューブ内のすべての Contributor Excel 式を削除したり、モデル内のすべての Contributor Excel 式を削除したりできます .

Contributor Excel 式を含むセルのデータ更新

Contributor Excel 式にリンクされている Excel セルのデータを変更するときに、式リンクを再実行して、Contributor セル内のデータを更新できます。

ヒント: Contributor Excel 式が参照している Excel セルのデータが変更され、そのデータをサーバーに保存しようとする、データをサーバーに保存する前に Contributor Excel 式を新しい情報に更新するかどうか確認を求められます。

1 つの式のデータ更新を行う手順

- Contributor セルをクリックし、[この Contributor Excel 式を実行]ボタン  をクリックします。

キューブ内のすべての式のデータ更新を行う手順

- [このキューブ内のすべての Contributor Excel 式を実行]ボタン  をクリックします。

モデル内のすべての式のデータ更新を行う手順

- [すべての Contributor Excel 式を実行]ボタン  をクリックします。

クイック コマンド

セルでは次のショートカットが使用可能です。このショートカットはセルに直接入力できます。

コピー コマンド

コピーコマンドを使用すると、値や処理をテーブル内の上下左右の行や列にコピーできます。コピー コマンドでは、そのコマンドが入力されたセルと同じ種類のセルに対して操作が実行されます。

コピー コマンドはデータ入力コマンドと組み合わせて使用できますが、Grow コマンドとの併用は避けてください。

コマンド	説明	例	動作
>	右にコピー	5>	数値 5 を右方向にコピーする
		inc6>	行の右方向の各値を 6% 増分する
<	左にコピー	add15<	行の左方向の各値に 15 を加算する
	下にコピー	3	3 を列の下方向にコピーする
		reset	列の下方向のセルを最後に保存した値にリセットする
^	上にコピー	hold^	列の上方向のセルを保持する
		2>^	数値 2 を右方向および上方向にコピーする
:	コピー停止	:	コピー コマンドと組み合わせて使用し、そのセルを超えてコピーが行われないようにする

データ入力コマンド

セルにデータ入力コマンドを入力すると、そのセルの値に対して操作が実行されます。コマンドの処理は Enter キーを押したときに行われます。

コマンドの大文字と小文字は区別されません。

コマンドは上下左右いずれの方向にも使用できますが、ページをまたいで使用することはできません。

コマンド	説明	例	動作
K	セルの値を千の単位で入力する。	5K	5000 を入力する。
M	セルの値を百万の単位で入力する。	10M	10000000 を入力する。
Add, +	セル値に数値を加算する。 重要:Contributor for Excel の場合、「+」を入力した場合の動作はこれと異なります。この場合、+ 記号は式の開始を表し、セルの既存のデータは上書きされます。		

コマンド	説明	例	動作
Subtract、 Sub	セル値から数値を減算する。 重要:Contributor セルでマイナス記号(-)を減算を表すのに使用することはできません。これは、Contributor ではマイナス記号が負の数を表すのに使用されるためです。	sub8	セル値から 8 を減算する。
Multiply、 Mul、*	セル値に数値を乗算する。	mul3	セル値に 3 を乗算する。
Percent、 per、%	パーセント値として入力された数値をセル値に乗算する。 重要:Contributor for Excel の場合、「%」を入力した場合の効果はこれと異なります。この場合、%を入力すると、入力した数値の形式がパーセント値になります。	per5	セルの値を元のセル値の 5% にする。
Increase、 Inc	パーセント値として入力された数値だけセル値を増分する。		
Decrease	パーセント値として入力された数値だけセル値を減分する。 重要:Contributor for Excel の場合、「Dec」と入力した場合の効果はこれと異なります。この場合、Dec は日付形式に変換されます。	decrease6	セル値を 6% 減分する。
Power、Pow	指数として入力された数値でセル値を累乗する。	Pow10	セルの値を 10 乗する。
Grow Compound、 Grow Linear、 GroCom、 GroLin、 GC、GL	指定したパーセント値ずつセルを増分していく。時間ディメンションにおいてのみ有効で、各期間を線形的に増分することもできれば、複利的に増分することもできます。 重要:Gro10Com や G40L のように、Grow と Linear/Compound の間に数値を入力します。	G10L	各期間の値を、元の値の 10% ずつ増分する。
Divide、 Div、/	セル値を入力された数値で除算する。	Div1.1	セル値を 1.1 で除算する。
Reset、Res	選択したセル値を最後に保存したときの値にリセットする。		
Zero、Zer	セルの値をゼロにする。		

コマンド	説明	例	動作
Round、Rou	入力内容に基づいて適切なレベルでセル値を四捨五入する。	Round100	すべてのセルを 100 の単位で四捨五入する。たとえば、5475 は 5500 になります。
Hold、Hol	セル値を保持して自動按分計算の対象外とする。		
Release、Rel	セルの保持を解除する。		

追加情報

1 つのプランにリンクされているユーザー注釈および添付ドキュメントは、追加情報というかたちでグループ化されています。追加情報は、Contributor キューブとアプリケーション間で、管理リンク、システムリンク、ローカル リンクを使用してコピーできます。

注:追加情報のコピーは、データが格納されているリンクを使用してのみ可能です。

注釈

プランにメモを追加したいという場合があります。これは、セル、タブ、またはモデル全体に注釈することで実現できます。

監査証跡注釈では、データの入力、ファイルのインポート、データのコピーおよび貼り付けなどの操作が自動的に記録されます。この機能は、e.List アイテムの所有者が複数いる場合に、誰が変更を加えたかを確認するのに便利です。

e.List アイテムには、ロック中のものを含め、どのようなワークフロー ステータスのものであっても注釈できます。1 つのセル、タブ、またはモデルに対して、1 回のセッションで 1 度のみ注釈が可能です。1 回のセッションは保存すると終了します。

重要:セッションを保存または提出したら、注釈を変更したり削除したりすることはできません。注釈を削除できるのは管理者のみです。

e.List アイテムに対して閲覧の権限しかない場合には、注釈することはできません。

手順

1. 注釈を追加するには、セル、タブ、またはモデルを右クリックし、[Contributor]、[注釈]の順にクリックします。それから、[セル]、[タブ]、[モデル]のいずれかを選択して[追加]をクリックします。メモを入力し、閉じます。
2. 注釈を表示するには、セル、タブ、またはモデルを右クリックし、[Contributor]、[注釈]の順にクリックします。それから、[セル]、[タブ]、[モデル]のいずれかを選択して[表示]をクリックします。セルとタブの注釈では、右上隅に赤い三角の印が付きます。
3. 現在のセッションで作成した注釈を編集するには、セル、タブ、またはモデルを右クリックし、[Contributor]、[注釈]の順にクリックします。それから、[セル]、[タブ]、[モデル]のいずれかを選択して[編集]をクリックします。

ヒント:注釈のテキストをすべて削除すると注釈そのものが削除されます。

4. Contributor の[操作]ツールバーの[保存]をクリックします。

この操作により、注釈以外のデータ変更もサーバーに保存されます。

ヒント:モデルの注釈をすべて表示するには、モデルを右クリックして[Contributor]、[追加情報の参照]の順にクリックします。

注釈へのリンクの追加

注釈には、Web ページ、ファイル、電子メール アドレスへのリンクを追加できます。

ファイルへのリンクを作成するのは、そのファイルを見る人が 2、3 人しかいないと予想される場合に限りです。もっと多くの人数が予想される場合は、Web サイトからそのファイルにアクセスできるようにします。

ファイルへのリンクを作成する前に、リンクするファイルが共有ネットワーク上にあることを確認します。また、固定ドライブ文字ではなく Universal Naming Convention (UNC) を使用するようにします。これは、固定ドライブ文字は注釈を表示する人によって違うことがあるためです。

手順

1. リンクを追加する注釈を含むセル、タブ、またはモデルを右クリックします。
2. [Contributor]、[注釈]の順にクリックし、[セル]、[タブ]、[モデル]のいずれかを選択して[編集]をクリックします。
3. リンクを追加します。
 - Web ページへのリンクを追加するには、[注釈の編集]ボックスに有効な URL (例: <http://www.Cognos.com>) を入力します。
 - 電子メール アドレスへのリンクを追加するには、[注釈の編集]ボックスに次のような HTML コマンドを入力します。
`mailto:<電子メールアドレス>`
このリンクをクリックすると、新しいメール メッセージを作成するウィンドウがデフォルト ブラウザの設定に基づいて開き、リンク先の電子メール アドレスが To: フィールドに入ります。
 - ファイルへのリンクを追加するには、次のような HTML コマンドを入力します。
`file:¥¥<UNC ドライブ名>¥docs¥expenses.xls`
ヒント:リンクを表示するには、注釈があるセル、タブ、またはモデルを右クリックし、[Contributor]、[注釈]の順にクリックします。それから[セル]、[タブ]、[モデル]のいずれかを選択して[表示]をクリックします。マウス ポインタを赤い三角の印の上に置いて注釈内のリンクを表示している場合、そのリンクはアクティブになりません。

ドキュメントの添付

セル、キューブ、モデルには、プラン策定作業に役立つよう、さまざまな種類のファイルを添付できます。添付できるファイルの種類は、Contributor 管理コンソールで管理者が設定します。添付ファイルは Planning アプリケーション データベースに保存されます。

次の種類のファイルはデフォルトで許可されています。

- Microsoft Word (.doc)
- Microsoft Excel (.xls)
- Microsoft PowerPoint (.ppt)
- Microsoft Visio (.vsd)
- Microsoft Project (.mpp)

- ZIP ファイル(.zip)
- RAR ファイル(.rar)
- Web ドキュメント(.htm、.html)
- テキスト ファイル(.txt)
- PDF ファイル(.pdf)

このデフォルトに対して、必要なファイルの種類を追加したり削除したりできます。実行可能ファイル(.exe)は、セキュリティ上の理由からデフォルト リストには含まれていませんが、管理者が追加できます。

ドキュメントの添付

Contributor Web アプリケーションでは、セル、タブ、モデルにドキュメントを添付できます。

注:Contributor for Excel にもこの機能があります。

手順

1. Contributor のワークフロー画面で、使用可能な e.List アイテムをクリックして開きます。
2. Contributor グリッドで、[添付ドキュメント]ボタンをクリックするか、セルを右クリックして[添付ドキュメント]を選択し、[セル]、[タブ]、[モデル]のいずれかを選択して[追加]をクリックします。[新規ドキュメントの添付]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [ソース ファイルの場所]フィールドに、ファイルの場所を入力するか、参照ボタンをクリックしてファイルの場所を参照します。ドキュメント名とファイル サイズが下部のフィールドに表示されます。
4. [コメント]フィールドにコメントを入力します。このフィールドへの入力には最大 50 文字に制限されています。
5. [OK]をクリックして、ドキュメントを添付します。

ドキュメントが添付されているセルの隅に赤い三角形が表示されます。アプリケーションに添付されるのはドキュメントのコピーであり、オリジナル ファイルではありません。これは電子メールにファイルを添付する場合と似ています。また、ドキュメント管理システムとしての使用を意図したものではありません。

追加情報の表示と編集

1 つのプランにリンクされている添付ドキュメントおよびユーザー注釈はグループ化され、このグループ化されたもののことを追加情報といいます。アプリケーションのこの追加情報を参照することで、添付ドキュメントを表示できます。e.List アイテムを開いても、添付ドキュメントはダウンロードされません。添付ドキュメントがアプリケーション サーバーからダウンロードされるのは、そのドキュメントを表示または編集するよう選択したときのみです。

注:オフラインで作業しているときには、添付ドキュメントは参照できず、ドキュメントを添付することもできません。ただし、セルにドキュメントが添付されているかどうかはオフライン時でも確認できます。

手順

1. Contributor グリッドで、[追加情報の参照]ボタンをクリックするか、セルを右クリックして[追加情報の参照]を選択します。Contributor のワークフロー画面にも、e.List アイテムにドキュメントが添付されていることを示すアイコンが表示されますが、ワークフロー画面から添付ドキュメントを開くことはできません。
2. [追加情報ブラウザ]ダイアログ ボックスで、表示する追加情報アイテムを選択し、[ドキュメントを表示]をクリックしてファイルを開きます。アイテムにフィルタをかければ、ユーザー注釈または添付ド

キュメントのみを表示できます。また、グリッドの現在のページの追加情報のみを表示するか、すべてのページの追加情報を表示するかを選択することもできます。

3. 追加情報を編集するには、追加情報アイテムを選択して[ドキュメントを編集]をクリックします。アイテムが開き、アプリケーションで変更を加えて新しいバージョンを保存できるようになります。ファイルに変更を加えた場合は、リポジトリを更新するよう求めるメッセージが表示されます。
4. 追加情報を削除するには、削除するアイテムのチェック ボックスをオンにして[削除]をクリックします。
注: 添付ドキュメントを削除できるのは所有者か Contributor の管理者のみです。
5. 注釈を印刷するには、印刷する注釈を選択して[印刷]をクリックします。添付ドキュメントを印刷するには、そのドキュメントを開き、関連付けられているビューアから印刷します。

ローカル リンクを使用した追加情報の移動

添付ファイルやユーザー注釈などの追加情報をコピーするには、ローカル リンクを作成します。

注: ローカル リンクを使用して算出セルをターゲットにすることはできません。

手順

1. Contributor グリッドで[データの取得]を起動します。
2. [ローカルリンクの実行]画面で[新規]をクリックして新しいローカルリンクを作成します。ウィザードで求められる情報をすべて入力します。
3. [データの取得]ダイアログ ボックスの[追加オプション]画面では、注釈や添付ドキュメントを含めるかどうかを選択できます。次のいずれかを実行します。
注: ローカル リンクに対してモデルの追加情報を選択することはできません。
 - 注釈のみを含めるには、[注釈を含める]をクリックします。
 - 添付ドキュメントのみを含めるには、[添付ドキュメントを含める]をクリックします。
4. リンクの設定が終わったら[終了]をクリックします。

チャートおよびグラフの追加

Excel ブックと同じように、Excel ゾーンにチャートやグラフなどのグラフィックを挿入できます。詳細については、Microsoft Excel のマニュアルを参照してください。グラフィックは Excel および Contributor ゾーン上に位置を固定せずに配置できます。

グラフィックを相対的にするか絶対的にするかを選択できます。

ビューの方向を変更したときにグラフィックも変更されるようにするには、Excel ブックと同じ方法でグラフィックを挿入します。

方向が変わってもグラフィックが変更されないようにするには、[コピー先の位置]を使用して Contributor ゾーンからコピーしたセルを、グラフィックのデータ範囲として使用します。詳細については、[「Contributor データを Excel ゾーンにリンクする」\(18 ページ\)](#)を参照してください。

データの保存

データを入力したら、データをサーバーに保存し、e.List アイテムを再計算することができます。保存したデータを後から編集することもできます。

また、データはいつでもローカルの Excel ブックに保存できます。ローカルに保存することによって、ネットワークに接続していない場合でもデータを開けるようになります。

Contributor for Excel では Excel の変更履歴の記録機能はサポートされていません。Contributor 対応のワークシートやブックで問題が発生するのを防ぐため、この機能は使用しないでください。

Contributor for Excel では、ワークシートまたはブックの保護機能はサポートされていません。Contributor 対応のワークシートやブックで問題が発生するのを防ぐため、この機能は使用しないでください。

検証規則が定義されているセルに値を入力したときに、指定されている検証規則にその値がかなっていない場合、そのプランを保存しようとする通知または警告メッセージが表示されます。この場合、プランをサーバーに保存するには、問題のあるデータを修正する必要があります。

サーバーにデータを保存する手順

1. Contributor の[操作]ツールバーの[保存]ボタンをクリックします。

検証プロセスでエラーが検出された場合、[検証エラー]ダイアログ ボックスにエラーが一覧で表示されます。このダイアログ ボックスでは規則違反の場所をすべて確認できます。

2. [検証エラー]ダイアログ ボックスが表示された場合、ダイアログ ボックス内のアイテムをダブルクリックします。

ポインタが、ワークシート内の違反があった最初のセルに移動します。

3. 必要な変更を加えます。
4. データ入力や変更が現行のビジネス規則やデータ形式の制限にかなっているかどうかを確認するには、[Contributor]メニューで[データの検証]をクリックします。
5. エラーが検出されなくなるまで、手順 2 から 4 までを繰り返します。
6. データをもう一度保存します。

データの操作を続けるか、Excel ブックを閉じます。データがサーバーに保存された後、Excel ブックをファイルに保存するオプションが表示されます。

データをローカルに保存する手順

- Excel の[ファイル]メニューの[保存]をクリックします。

ブックをローカルに保存する場合、サーバーにもデータを保存することを推奨します。

ローカルに保存されたブックの操作

ローカルに保存された単一または複数の Contributor ブックは、Contributor サーバーに接続しなくても操作が可能です。プランが完成したら、そのバージョンをサーバーに保存し直して、中央の Planning プロセスに再び参加する必要があります。サーバーにログオンすると、Planning モデルに追加された最新の変更が自動的にダウンロードされ、開いているブックにサーバーの最新値が入力されます。

ただし、これによって使用しているデータが失われることはありません。Contributor for Excel は、アクティブ セッション内のデータのコピーを自動的に作成しています。Contributor for Excel のセッションが開かれている限り、一部またはすべてのキューブのアクティブ データを、使用しているブックに自由に再ロードできます。再ロードを実行すると、管理者がセルをロックしていない限り、サーバーから取得した値が上書きされます。

たとえば、支出用の額を減らす必要がある場合に、この方法を利用できます。個別のブックにあるいくつかの異なるシナリオを比較検討してから、サーバーにデータをロードすることができます。

保存されたデータをサーバーにロードするときに、Contributor サーバー内の最新データを保存されたデータに置き換えることができます。たとえば、サーバー上の販売予測データに変更が加えられたとき、

その値を以前の値に置き換える場合は、ローカルに保存されているブックを開き、保存されたデータをサーバーにロードします。

サーバーにデータをロードする場合、編集権限を持っているセルに対してのみロードが許可されます。管理者がロックしているセルにはデータをロードできません。ブックを保存した後に Contributor サーバーからセルが削除された場合、保存されたブック内の該当するセルのデータはサーバーにロードされません。

重要:ブックを保存してからサーバー上のデータ内容またはデータ構造に大きな変更が加えられた場合、保存されたデータをサーバーにロードする方法が適切でない可能性があります。

手順

1. サーバーにログオンしている場合は、[Contributor]メニューの[ログオフ]をクリックします。
2. 保存されているブックを開きます。
3. ブックのデータを変更します。
4. [Contributor]メニューの[ログオン]をクリックします。
5. [はい]をクリックし、[ログオン]をクリックします。
6. ユーザー ID とパスワードを入力します。
7. アプリケーションのリストから選択するように求めるプロンプトが表示されたら、必要なアプリケーションをクリックします。
8. テーブルで e.List アイテムを開きます。
ワークシートに、Contributor サーバーから取得した最新のデータが表示されます。
9. [Contributor]メニューの[データの回復]をクリックします。
10. ブックからサーバーにロードするデータが含まれているキューブを選択します。
11. ブックからロードするキューブに注釈を含めるかどうかを選択します。
12. [OK]をクリックします。

テンプレートの保存

計算やカスタム形式を、テンプレートとしてローカルに保存できます。

このテンプレートを他のユーザーに送ったり、共用サーバーに保存したりできます。他のユーザーがこのテンプレートを Excel で開いて Contributor にログオンすると、開いた e.List アイテムからのデータを使ってテンプレートにデータが入力されます。保存されたテンプレートの使用については、「[保存されたテンプレートを使用したデータ表示](#)」(14 ページ)を参照してください。

テンプレートとして保存できるのは、単一の e.List アイテムビューのみです。e.List アイテムをテンプレートとして保存するとき、多次元 Contributor 式はすべて e.List に相対的に保存されます。Contributor から Excel へのリンクについては「[Contributor データを Excel ゾーンにリンクする](#)」(18 ページ)を参照してください。

手順

- [Contributor]メニューの[テンプレートとして保存]をクリックします。

データのリセット

Contributor ゾーン内のすべてのデータを、保存済みのバージョンにリセットできます。

重要:この操作により注釈もリセットされるため、最後の保存時以降に追加した注釈がすべて失われます。

手順

- [Contributor]メニューの[すべてリセット]をクリックし、[はい]をクリックします。

ヒント:選択したデータのみをリセットするには、Reset クイック コマンドを使用します (20 ページ)。

データの印刷

Contributor の印刷機能を使用して、Contributor データの現在のビューを印刷できます。Excel 標準の印刷機能も使用できます。

ワークシートの現在の 2 次元ビューを印刷する手順

- Excel の[ファイル]メニューから、いずれかの印刷オプションを選択します。

Excel データや形式を含めずに、Contributor データのみを印刷する手順

- [Contributor]メニューの[多次元の印刷]をクリックします。

データを承認に回す


e.List アイテムのデータに満足した場合は、Planning モデル階層の次の承認者に e.List アイテムを提出します。

検証規則が定義されているセルに値を入力したときに、入力された値が指定されている検証規則に合っていない場合、そのプランを提出しようとする通知または警告メッセージが表示されます。この場合、e.List アイテムを次の承認者に提出するには、問題のあるデータを修正する必要があります。

e.List アイテムを提出すると、アイテムはロックされ変更できなくなる点に注意してください。

データを提出するには提出権限が必要です。また、アイテム内のすべての e.List アイテムがすでに提出されている必要があります。

手順

1. Contributor の[操作]ツールバーの[提出]ボタン  をクリックします。

検証プロセスでエラーが検出された場合、[検証エラー]ダイアログ ボックスにエラーが一覧で表示されます。このダイアログ ボックスでは規則違反の場所をすべて確認できます。

2. [検証エラー]ダイアログ ボックスが表示された場合、ダイアログ ボックス内のアイテムをダブルクリックします。

ポインタが、ワークシート内の違反があった最初のセルに移動します。


3. 必要な変更を加えます。



4. データ入力や変更が現行のビジネス規則やデータ形式の制限に合っているかどうかを確認するには、[Contributor]メニューで[データの検証]をクリックします。


エラー メッセージが表示されなくなったら、合計が計算され、データが承認者に提出されます。承認者は、e.List アイテムに加えられた変更を受理することもできれば却下することもできます。



データの承認

自分が承認する責任がある e.List アイテムは“承認”の下にグループ分けされています。

自分が権限を持っている e.List アイテムは、ステータスがどうであれ、表示できます。複数の e.List アイテムを一度に表示することもできます。その場合、e.List アイテムはそれぞれ別個のウィンドウに開きます。アイテムが承認に回されると、ロック されます。

e.List アイテムのコンテンツに満足できない場合、適切な権限を持っていれば、ワークフロー画面で、あるいはグリッドから[却下]ボタン をクリックして却下できます。却下された e.List アイテムのステータスは、[ロック中]から[進行中] に変わります。この e.List は変更の上で再提出する必要があります。

この e.List を受理するためにはどのような変更が必要なのかを説明した電子メールを、作成アイテムの所有者に対して送信するよう求めるメッセージが表示される場合があります。また、作成アイテムに注釈をつけることもできますし、適切な権限を持っていれば、作成アイテムを編集することもできます。その場合、まず所有権を取得 する必要があります。

承認する e.List アイテム内の各 e.List アイテムがすべて提出されると、ステータスが[完了] になります。すべてのコンテンツに満足したなら、承認する e.List アイテムをグリッドから提出 します。

第 3 章: データの取得

[データの取得]ツールを使用すれば、ローカル リンクとシステム リンクという 2 種類のリンクを実行できます。

ローカル リンク


ローカル リンクとは、[データの取得]で直接作成されるリンクのことです。ローカル リンクでは、他の Contributor タブなど、さまざまなソースから Cognos 8 Planning - Contributor へデータがロードされます。

システム リンク


システム リンクとは、Contributor の管理者が作成し、指定されたユーザー、または指定されたグループや役割に属するユーザーに配布されるリンクのことです。システム リンクは Contributor 管理コンソールで定義されており、Web ユーザーが編集したり共有したりすることはできません。システムリンクでは、同じ Planning Store 内の他の Contributor アプリケーションからのソース データを使用できます。

リンクのステータス

[ローカル リンクの実行]ダイアログ ボックスには、開いている Contributor グリッドで使用可能なすべてのリンク (ローカル リンクまたはシステム リンク) と、そのリンクのステータスが一覧で表示されます。

リンクには[完了] と[未完了]の 2 つのステータスがあります。

[完了]アイコンは、リンクの定義が正しいときに表示されます。すべてのソース ディメンションがターゲット ディメンションにマッピングされているか、マッピングされていないソースとターゲットの各ディメンションから少なくとも 1 つのアイテムが選択されています。リンクを実行できるのは完了ステータスのときのみです。

[未完了]アイコン は、リンクの定義が正しくないときや完了していないときに表示されます。ロード定義が完了していない場合は、リンクを実行できません。リンク定義が完了していない理由には次のようなものが考えられます。

- [ソース]タブか[ターゲット]タブが選択されていない
- 列か行が「記述項目」に指定されていない
- 余分なソース ディメンションまたはターゲット ディメンションが存在する

ローカル リンク

ローカル リンクとは、一連のデータのためのマッピングのことで、Contributor グリッドの e.List アイテムにデータをインポートするために設定されているか、Contributor グリッドで開かれている e.List アイテムの別の場所にデータを移動するために設定されているかのどちらかです。ローカル リンクは、ソース データ、ソースのアイテム、追加情報、ソース データのターゲット タブで構成されています。

リンク定義は、外部データ ソースまたはアクティブな Contributor グリッドのタブを使用して作成します。作成したリンク定義は後から変更および配布が可能であり、*.cld ファイルとして保存できます。

[データの取得]では、ローカル リンクの作成 (32 ページ)と実行 (31 ページ)が可能です。

ローカル リンクの作成

次の種類のソースからデータをロードするには、ローカル リンクを作成します。

- ASCII ファイル

テキスト ファイルからデータをロードするときには、ASCII リンクを作成します。

- Excel

Excel ブックの 1 つのワークシートからデータをロードするときには、Excel リンクを作成します。
Contributor Export for Excel を使用して作成した .xls ファイルも使用できます。

重要:Excel ファイルをソースとして使用するときに、自動按分が正しく動作するよう、インポートする前にファイル中の該当する行をまず削除しておく必要があります。

自動按分機能では、詳細なセル エントリのほうが自動按分より優先されます。Excel ファイルをインポートするときには、空白のセルはゼロとして扱われます。そのため、空白のセルをインポートすると、詳細なセル エントリにゼロがインポートされます。その結果、期待された自動按分の結果がグリッドに表示されません。

自動按分が正しく動作するためには、自動按分を含める行をソース ファイルから削除しておく必要があります。この処理を行ってからリンクを実行すると、自動按分が行われ、期待したとおりの結果が Contributor グリッドに表示されます。

- ローカルの Contributor データ

アクティブな Contributor グリッド内のデータを移動するときには、Contributor から Contributor へのリンクを作成します。1 つのタブ内またはタブとタブの間でデータを移動できます。


手順

1. [データの取得]を開きます。
2. [ローカル リンクの実行]ダイアログ ボックスで、[新規]ボタンをクリックします。
[ソースの種類とリンク先の定義]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [リンク名]ボックスに、新しいロードの名前を入力します。
リンク名は一意でなければならず、'¥/:*?"<>|' の各文字は使用できません。
4. [説明]ボックスに、リンクのソースとターゲットについての簡単な説明を入力します。
ヒント:この情報はリンクを他のユーザーと共有するときに役立ちます。
5. [データ ソースの種類]ボックスで、必要なデータ ソースの種類をクリックします。
6. Contributor のデータを使用する場合は、[ソース タブの選択]リストで、ロードするデータがあるソース タブをクリックします。
7. Excel または ASCII データをソースとして使用する場合は、[ターゲット タブの選択]リストでデータのロード先となるターゲット タブをクリックし、[次へ]をクリックします。
[ソース データの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
8. [ソース]ボックスに、ファイル名を入力します。
9. 使用するソース ファイルの種類に応じて、次の情報を入力します。
 - 列の幅が固定されている ASCII ファイルの場合は、[固定幅の列]をクリックします。

- ASCII 区切り記号付きファイルの場合は、ファイルで使用する区切り記号とテキスト修飾子を指定します。
- Excel スプレッドシートの場合は、必要に応じてワークシートを選択します。
- Contributor タブの場合は、ソース タブとターゲット タブを指定します。

10. [次へ]をクリックして処理を続けます。

[ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスが表示されます。


11. 上部の作業領域で、「記述項目」データとして指定する行や列を1つずつ選択し、[記述項目]をクリックします。[記述項目]アイコン が表示されます。

ソース ファイルで、データ列として指定した列より後ろの列を「記述項目」として指定することはできません。

12. ロードするデータが含まれている行や列を1つずつ選択して、[値]をクリックします。

13. 一部のデータが数値でない場合は、数値でないデータが含まれている列や行を1つずつ右クリックして[データ形式]をクリックし、[テキスト]、[数値]、[日付]のいずれかをクリックします。

14. ソース データの一部の行や列が必要でない場合は、該当する行または列を1つずつ選択して[無視]をクリックします。

[無視]アイコン がヘッダーに表示されます。

15. データのロードを最初の行から開始しない場合は、[インポート開始行]ボックスに、インポートを開始する行番号を入力します。

16. 必要に応じて、行と列の名前を変更します (34 ページ)。

17. 必要に応じて、列を分割したり、ディメンションを結合したりします (34 ページ)。

この時点で、ディメンションをマッピングする必要があります。

[ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックス

[ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスは2つの作業領域に分割されています。

上部の領域では、ソース ディメンションを、データ、記述項目の情報、不要な行や列のいずれかに指定します。リンク定義を理解しやすくするために、列や行の名前を変更することもできます。この領域では、ターゲット ディメンション側の必要に応じて列を結合したり分割したりする作業も行います。

ソースとターゲットのマッピング

列および行について、その内容が記述項目であるか、データ値であるか、あるいは無視するかを指定した上で、ソース ディメンションをターゲット ディメンションにマッピングします。

列および行の識別子を設定

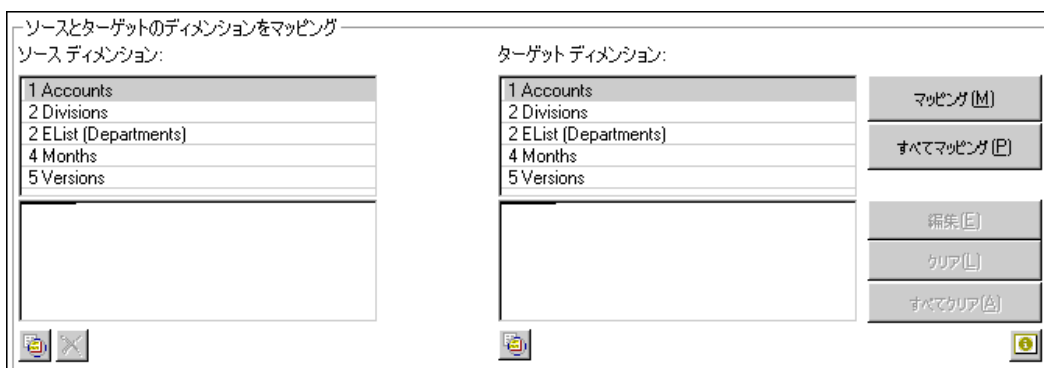
	列1	列2	列3	列4	列5	列6	列7
データ形式	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値
行1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
行2	601100	Sal.					
行3	601600	Sal.					
行4	601000	Sal.					
行5	605050	Ber					
行6	605100	Ber					
行7	605500	Ber					

インポート開始行: 列見出しにする行:

右側の操作ボタン: 記述項目 (D), 無視 (I), 値 (V), 名前の変更 (R), 分割 (I), 結合 (U)

下部の領域では、ソース ディメンションをターゲット ディメンションにマッピングします。1つ以上のソース ディメンションをターゲット ディメンションに手動でマッピングすることも、[すべてマッピング]を選択して、

同じ名前のディメンションを自動的にマッピングすることもできます。また、マッピングされたディメンションの編集やクリアも行えます。



行または列の名前の変更

[データの取得]でソースファイルをプレビューすると、ヘッダーの名前が自動的に変更されます。たとえば列は C1、C2 に、行は R1、R2 に名前が変更されます。

この列と行の名前を手動で変更することも、既存の列ヘッダーを使用して列の名前を変更することもできます。

ヒント:行と列をターゲット ディメンションと同じ名前に変更すると、どのソース ディメンションとターゲット ディメンションが一致するのかが識別しやすくなります。さらに、[すべてマッピング]機能も使用できるようになります。

手動で行と列の名前を変更する手順

1. [ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスで、行または列のヘッダーを選択して[名前の変更]をクリックします。
2. 新しい見出しを入力します。
3. [OK]をクリックします。

行ヘッダーを使用した列の名前の変更

行ヘッダーを使用するには、次の手順を実行します。

- [ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスの[列見出しにする行]ボックスに、各記述項目列に使用する元の名前が含まれた行の番号を入力します。

この設定は、データによって動的には変更しません。

列の分割

複数のターゲット ディメンションに別々にマッピングすべき情報が列に含まれている場合は、列を分割できます。たとえば、Jan-03 の形式で日付が一覧表示されるソース ディメンションがあり、ターゲット ディメンションのほうは月と年の 2 つに分かれているとします。この場合に、データを正しくロードするためには、ソース ディメンションを 2 つのサブ ディメンションに分割する必要があります。

注:「記述項目」に指定されているディメンションは分割できません。

手順

1. [ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスで、分割するソース ディメンション (行または列) を選択して[分割]をクリックします。

2. データを分割する位置にポインタを合わせて左クリックし、線を適切な位置にドラッグします。
3. 文字を右クリックして、分割バーを消します。
4. [OK]をクリックします。

ディメンションの結合

複数のソース ディメンションを結合して、1 つのターゲット ディメンションにマッピングできます。たとえば、年 (03) のソース ディメンションと月 (Jan) のソース ディメンションを 1 つのディメンション (Jan 03) に結合して、月と年 (Jan 03) のターゲット ディメンションにマッピングするという場合が考えられます。

注:どちらかのディメンションが「記述項目」に指定されている場合は、2 つのディメンションを結合できません。

分割された新しいディメンションを結合すれば、分割を元に戻すこともできます。

手順

1. 結合する列または行を選択します。
2. [結合]をクリックします。

ディメンションのマッピング

ロードするためには、ソース ディメンションをターゲット ディメンションにマッピングする必要があります。

同じ名前のソース ディメンションとターゲット ディメンションを自動的にマッピングすることもできますし、ソース ディメンションをターゲット ディメンションに手動でマッピングすることもできます。

ヒント:ソース ディメンションとターゲット ディメンションを接続する線の上にポインタを合わせれば、どの種類のマッピングが使用されたかがわかります。

ソースディメンションとターゲットディメンションの名前が一致していれば、すばやくマッピングできます。行と列の数が多い大きなファイルを処理するときには、この機能が便利です。

[すべてマッピング]ボタンは、一致するディメンションが少なくとも 1 セットある場合にのみ使用できます。

ソース ディメンションとターゲット ディメンションのアイテムが一致しない場合は、手動でマッピングする必要があります。たとえば、ソース アイテムが Jan-03 でターゲット アイテムが 1-03 となっている場合などです。手動でマッピングされたロードのソースかターゲットにアイテムが追加された場合は、そのロードを手動で更新する必要があります。

自動マッピングの手順

1. 名前がまだ一致していない場合は、[ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスで、対応するターゲット ディメンションの名前と同じになるように列と行の名前を変更します。
2. [すべてマッピング]をクリックします。

ペアになったディメンションが線で接続されます。

ヒント:接続している線(またはどちらかのディメンション)をダブルクリックすれば、ディメンションのアイテムが正しくマッピングされていることを確認できます。

リンクのプロパティを変更するには、線をクリックして[編集]をクリックします。リンクを削除するには、線をクリックして[クリア]をクリックします。すべてのリンクを削除するには、[すべてクリア]をクリックします。

手動でのマッピングの手順

1. [アイテムのマッピング]ダイアログ ボックスで、ソース ディメンションとターゲット ディメンションを選択してから、[マッピング]をクリックします。

[アイテムのマッピング]ダイアログ ボックスが表示されます。一致しているディメンションのアイテムがあればハイライトされます。

ヒント: 大文字と小文字を区別してアイテムをマッピングする場合は[大文字と小文字を区別する]チェック ボックスをオンにし、算出アイテムをマッピングする場合は[算出アイテム]チェック ボックスをオンにします。
2. [OK]をクリックし、ハイライトされたディメンションのアイテムで確定します。

[ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスが再度表示されます。
3. 一致しないアイテムが[アイテムのマッピング]ダイアログ ボックスに残っている場合は、[手動でマッピング]をクリックして、次の操作を行います。
 - [ソース アイテム]ボックスで、ソース アイテムを選択します。
 - [ターゲット アイテム]ボックスで、ターゲット アイテムを選択します。
 - [追加]をクリックします。
 - [OK]をクリックします。
[ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスが再度表示されます。ペアになったディメンションが線で接続されます。
4. [次へ]をクリックします。[追加オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。


注釈を含めるには、[注釈を含める]を選択します。

添付ドキュメントを含めるには、[添付ドキュメントを含める]を選択します。
5. リンク要素の設定が終わったら[終了]をクリックします。
6. [ローカル リンクの実行]ダイアログ ボックスが再度表示され、新しいローカルリンクと、そのリンクが完了か未完了かが表示されます。

ディメンション内のアイテムの表示

表示できるのは、ディメンション内の詳細アイテムのうち最初の 50 個のみです。


手順

1. ソースまたはターゲットのどちらかのディメンションを選択します。
2. ディメンション名の下にある[プレビュー]ボタン  をクリックします。

ディメンションの削除

[ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスの[ソース ディメンション]リストでディメンションを選択し、削除できます。

手順

1. [ソースとターゲットのマッピング]ダイアログ ボックスで、削除するソース ディメンションを選択します。
2. [削除]ボタン  をクリックします。

この操作をすると、行や列から「記述項目」の指定が削除されます。この時点で、行や列が値として扱われるようになります。

文字によるディメンション アイテムのフィルタ処理


アイテム名の最初にくる文字または文字列に基づいて、ディメンション アイテムリストに表示されるディメンション アイテムにフィルタをかけることができます。

注: このフィルタが適用されるのは、リストに表示されるアイテムのみです。ターゲットにロードされる内容には影響しません。

手順

- [アイテムのマッピング]ダイアログ ボックスの[フィルタ]ボックスで、フィルタをかけるために使用する文字または文字列を入力します。

[フィルタ]ボックスに入力した文字または文字列で始まるアイテムのみがディメンション アイテム リストに表示されます。

ヒント: フィルタを削除するには、[フィルタ]ボックス  に指定されている文字列を削除します。

サブストリングによるディメンション アイテムのフィルタ処理

文字の位置に基づくサブストリングフィルタを使用してディメンション アイテムにフィルタをかけられます。たとえば、各アイテムの 3 番目、4 番目、5 番目の文字を対象にして、アイテムにフィルタをかけられます。

サブストリングを使用すると、サブストリングに一致するすべてのアイテムが 1 つのアイテムに自動集計されます。たとえば、Budget 1、Budget 2、Budget 3 という名前のディメンション アイテムがある場合に、最初の 3 文字に「BUD」というサブストリングを適用した場合、3 つのアイテムすべてが 1 つのディメンション アイテムに自動集計されて、ターゲット ディメンションにロードされます。

文字でフィルタをかける場合とは異なり、サブストリングを使用すると、ディメンション アイテム リストに表示される内容のみでなく、ロードされる内容にも処理が適用されます。サブストリングは、ディメンションを手動でマッピングするときにも、自動的にマッピングするときにも使用できます。

手順

1. [アイテムのマッピング]ダイアログ ボックスで、[サブストリング]ボタンをクリックします。
[サブストリングの選択]ダイアログ ボックスが表示され、ディメンション リスト内で最長のアイテム名が表示されます。

2. ディメンション リスト内に表示したくない文字の下のチェック ボックスをオフにします。

ヒント: ポインタをドラッグすれば、複数のチェック ボックスを一度にオフにできます。

3. [OK]をクリックします。

これで、選択した位置の文字に基づいてディメンション アイテムにフィルタがかけられるようになります。

マッピングされていないディメンション

マッピングすると、1 つ以上のソース ディメンションと 1 つのターゲット ディメンションの間に関係が作成されます。ソース ディメンションとターゲット ディメンションをすべてマッピングすると、ロード定義は完了です。時には、ソースとターゲットにあるディメンションの数が異なる場合や、一部のソース ディメンションをターゲット ディメンションに直接はマッピングしないという場合もあります。すべてのディメンションをマッピングするか他の処置をしておかなければ、ロードを実行することはできません。

ロードは、完了または未完了の記号とともに[ローカル リンクの実行]リストに表示されます。

マッピングされていないソース ディメンションの解決

マッピングされていないソース ディメンションとは、ターゲット ディメンションにマッピングされていないディメンションのことです。マッピングされていない各ソース ディメンションのアイテムのうち、ロードに含めるものを指定する必要があります。マッピングされていないディメンションすべてから少なくとも 1 つのアイテムを選択する必要があります。そうしないと、ソースのデータがロードされず、リンクが未完了になります。

注:すべてのソース ディメンションについて、ターゲット ディメンションにマッピングするか、ロードに含めるようアイテムを[マッピングされていないソース ディメンション]ダイアログ ボックスで選択する必要があります。そうしないと、ロードは[完了]とならないため、実行できません。

手順

1. [マッピングされていないソース ディメンション アイテムの選択]ダイアログ ボックスの[選択可能]リストで、どのディメンション アイテムをロードするかを選択します。
複数のアイテムを選択すると、集計された合計がターゲットにロードされます。
2. すべてのアイテムと、ソースディメンションに今後アイテムが追加されればそれも含める場合は、[すべてのアイテム]チェック ボックスをオンにします。
3. [次へ]をクリックします。
4. まだマッピングされていないソース ディメンション アイテムがあれば、そのアイテムに対してこの操作を繰り返します。

マッピングされていないターゲット ディメンションの解決

マッピングされていないターゲット ディメンションとは、ソース ディメンションがマッピングされていないターゲット ディメンションのことです。

すべてのターゲット ディメンションについて、ソース ディメンションとマッピングするか、ロードに含めるようアイテムを選択する必要があります。そうしないと、ロードは[完了]とならないため、実行できません。

手順

1. [マッピングされていないターゲット ディメンション アイテムの選択]ダイアログ ボックスの[選択可能]リストで、ソース データのターゲットをどのディメンション アイテムにするかを選択します。
選択したすべてのアイテムに、同じ値がロードされます。
2. 現在のすべてのアイテムと、ターゲット ディメンションに今後アイテムが追加されればそれも含める場合は、[すべての詳細アイテム]チェック ボックスをオンにします。

3. [終了]をクリックします。

既存のリンク定義の追加

他の Contributor のユーザーが作成したリンク定義を[ローカル リンク]リストに追加できます。

手順

1. [追加]をクリックします。
2. 追加するリンク定義ファイル(*.cld)を見つけます。
3. [開く]をクリックします。

新しく追加されたリンク定義が[ローカル リンク]リストに表示されます。これで、このリンク定義の編集や実行が可能になります。

リンク定義の共有

電子メールやネットワーク上の場所を使用してリンク定義を配布すれば、他の Contributor のユーザーとリンク定義を共有できます。

リンクを実行するには、リンク定義で定義されているターゲット キューブに対する提出か編集のアクセス権がユーザーに必要です。アクセス権は Contributor 管理コンソールで定義します。

手順

1. [ローカル リンク]リストで、共有するリンク定義を選択します。
2. [名前を付けて保存]をクリックして、リンク定義をローカル コンピュータかネットワーク上の場所に保存します。
3. リンク定義ファイル(*.cld)とソース ファイル(*.xls または *.txt)を他のユーザーが使用できるようにします。

これで、ユーザーがリンク定義ファイルを[ローカル リンク]リスト(39 ページ)に追加できるようになります。ユーザーが現在のソースファイルの場所を変更したり、別のソースを使用したりしようと思った場合は、自分でリンク定義を変更する必要があります。

ローカル リンクの実行

ターゲットの Contributor タブにデータをロードするには、そのタブに対する変更か提出の権限が必要です。読み取り専用のタブにデータをロードすることはできません。

手順

1. [ローカル リンク]リストで、実行するローカル リンクを選択します。

複数のロードは連続して実行されます。

ヒント: 実行する順序に従って[ローカル リンク]リストにローカル リンクを追加すれば、ローカル リンクを実行する順序を制御できます。

2. [実行]をクリックします。
3. リンクの実行が終了したら、[OK]をクリックします。

クイック ロード

クイック ロード機能を使用すれば、Excel 用エクスポート ファイルからデータをロードできます。

手順

1. [ローカル リンク]ダイアログ ボックスで、[クイック ロード]ボタンをクリックします。
2. [Excel 用エクスポート ファイル]の下に[ソース]ボックスにファイル名を入力します。
3. ロードするワークシートを選択します。
ヒント:[すべてを選択]や[すべての選択を解除]ボタンをクリックすることもできます。
4. プレビュー ウィンドウでファイルをプレビューします。
5. [実行]をクリックします。

システム リンクの実行

システム リンクを実行できるのは、システム リンクに対するアクセス権を Contributor の管理者から付与されている場合のみです。システム リンクを作成することはできません。

ヒント:[履歴]ボタンをクリックすれば、リンクの実行日時や実行者などが記録された、システム リンクの実行履歴が表示されます。

手順

1. [システム リンク]リストで、実行するシステム リンクを選択します。
2. [実行]をクリックします。
エラーがある場合は、それを表示するか、それとも無視するかを尋ねるメッセージが表示されます。

第 4 章: Excel への Contributor データのエクスポート

管理者がこの機能を有効にしている場合は、Contributor のデータを Excel にエクスポートできます。データを Excel にエクスポートすることで、Excel の機能を利用して、レポートやグラフを作成したり、データを操作したりできます。

手順

1. [ツール]メニューから[Export for Excel]をクリックします。
注:このメニュー項目の名前は管理者が設定可能です。
2. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [現在のビューのみ]:選択したタブのアクティブ ページが Excel にエクスポートされます。
 - [既存レポートの更新]:更新済みの Contributor データで既存のレポートが更新されます。
 - [新規レポートの定義]:新しいレポートを作成します。
3. [既存レポートの更新]を選択した場合は、次のようにオプションを設定します。
 - 新規レポートを追加するには、[追加]をクリックし、レポートを追加する場所に移動します。レポートを削除することもできます。
 - [レイアウトの問題を解決するプロンプトを表示]を指定すると、既存のレポートのデータと現在のデータが比較されます。行、列、ページ、ヘッダーの追加や削除といったレイアウトの違いがあれば、プロンプトが表示されます。
 - [レイアウトの問題を無視]を指定すると、既存のレポートと新しく作成されたレポートの間のレイアウトの問題は無視されます。
 - [レイアウト問題のレポートを生成]を指定すると、モデルとレポートの構造の違いを1つずつ説明するレポートが生成されます。
 - [キャプションの更新]を指定すると、モデル データの行、列、シートのキャプションの文字列が更新されます。
4. [新規レポートの定義]を選択した場合は、次のようにオプションを設定します。
 - エクスポートに使用するセクション (42 ページ) の種類を選択します。セクションには追加情報を含めることができます。
 - レポートにどのタブを含めるかを選択します。すべてのタブを選択することもできます。
 - 各タブのデータのうち、エクスポートするものを選択します。
 - [セクションの使用]を選択すると、保存された既存のセクションを再利用できます。
 - セクションの方向を選択します。なお、セクションに複数のディメンションが含まれている場合はラミネートされます。ヘッダー セルが重複している場合、[重複するヘッダー セルを結合]チェック ボックスを選択して結合できます。

セクション

セクションとは、特定のレポートを作成するためにグループ化された Contributor アプリケーションの一連のデータのことです。このようなセクションは、Contributor アプリケーションの 1 つ以上のタブのデータで構成されます。

作成して保存したセクションは保存されたセクションと呼ばれ、Contributor の管理者が決めた特定の場所に保存されます。

Excel 用エクスポートの設定の詳細については、『Contributor Administration Guide』を参照してください。

使用するセクションのオプションを選択します。

- [新規セクション]: データのセクションが新しく作成されます。追加情報を含めるように選択することもできます。
- (オプション) このセクションを後で再利用できるようにするには、新規セクションの名前をフィールドに入力します。データ セクションの内容を表す名前(「2001 Revenue」、「Eastern Region Expenses」など)を付けます。
- [セクションの編集]: 既存のセクションの構造を変更します。
- [セクションの使用]: セクションの構造を変更せず、以前に保存されたセクションを使用します。以前に保存されたセクションの構造が(モデルの変更により)大幅に変更されている場合は、そのセクションの互換性がなくなっていて再作成が必要になる場合があります。
- [追加情報を含める]: セクションに追加情報を含めます。元のセクションの作成時に追加情報が含まれていなかった場合は、以前に保存されたセクションに対して[追加情報を含める]を選択できません。このセクションに追加情報を含める必要がある場合は、[セクションの編集]を選択します。

第 5 章: ベスト プラクティス

このセクションでは、次の分野において Cognos 8 Planning – Contributor for Excel を最も効果的に使用する方法を説明します。

- Excel ブックに保存されたドラフトの操作 (43 ページ)
- テンプレート、形式、式 (44 ページ)
- Visual Basic とマクロ (45 ページ)
- 安全な Web サイト アクセス (46 ページ)

Excel ブックに保存されたドラフトの操作

Contributor for Excel を使用すると、分散したユーザーでも、各自の提案を Contributor サーバーに伝えることによって、中央の Planning プロセスに参加できるようになります。管理者はモデルを変更し、新しいデータをモデルに導入することができます。Contributor for Excel を使用すると、Excel ブックを使用してデータを追加したり、ドラフトの Planning シナリオに Excel のカスタマイズ設定 (形式と入力式および出力式) を追加できます。このような Excel ブックにドラフトを保存することでサーバーに接続していないときも作業が可能になり、複数のドラフト シナリオのデータや Excel のカスタマイズ設定を保持できます。

モデル、データ、Excel カスタマイズ設定の場所

場所	中央サーバーのバージョン	Excel 用アドインのアクティブ セッション	Excel ファイルに保存されたドラフト
Planning モデル	+	+	+
データ	+	+	+
Excel カスタマイズ設定 (形式と入力式および出力式など)		+	+

保存された Excel ブックの開き方とオフライン モード

Contributor Planning モデルが含まれた保存済みの Excel ブックを開くと、そのブックに保存されている Planning モデル、データ、Excel のカスタマイズ設定が表示され、これらを編集できます。

関連付けられている Contributor Web サイトにログオンして中央の Planning プロセスに再度参加するまでは、保存されていたモデルやデータが最新のモデルやデータで更新されることはありません。

職場から離れた場所でオフラインで作業する必要がある場合は、保存された Excel ブックをオフラインモードで開きます。データを更新するにはシステムにログオンする必要があります。

Contributor Web サイトへのログオンとオンライン モード

Contributor Web サイトにログオンすると、中央の Planning プロセスに参加できます。サーバーにログオンすると、サーバーから Planning モデルの最新の変更点と値が使用中のブックに自動的にダウンロードされます。

ただし、これによって使用しているデータが失われることはありません。Contributor for Excel は、アクティブ セッション内のデータのコピーを自動的に作成しています。Contributor for Excel のセッションが開かれている限り、一部またはすべてのキューブのアクティブ データを、使用しているブックに再ロードできます。再ロードを実行すると、管理者がセルをロックしていない限り、サーバーから取得した値が上書きされます。この機能を実行するには、[Contributor] メニューの[データの回復]をクリックします [\(27 ページ\)](#)。

データは次のような方法で取得できます。

- ログオン時にサーバー上の最新データが取得されます。
- オフラインでの作業によって、あるいはログオンして[データの回復]コマンドを使用することによって、アクティブ セッション中の最新データが得られます。
- アクティブのブックを保存しないで閉じ、そのブックまたは別のブックを開いてオフライン モードで作業することによって、Excel ファイルに最後に保存されたデータを取得できます。

Excel のカスタマイズ設定を取得するかどうかは、保存されたブックからログオンするとき、そのブックに Excel のカスタマイズ設定が適用された Contributor Planning モデルが含まれているかどうかで決まります。次の選択肢があります。

- Excel のカスタマイズ設定を使用しない
- Excel のカスタマイズ設定を使用する

Excel のカスタマイズ設定を使用しない

Contributor Planning モデルを含まない Excel ブックから Contributor Web サイトにログオンすると、中央サーバー バージョンから最新の Planning モデルと最新データが新しいワークシートに挿入されます。

Contributor Planning モデルが挿入されるのは、既存のブックまたは空白のブックです。

その後、データを追加したり、ワークシートをカスタマイズしたりできます。

Excel のカスタマイズ設定を使用する

Contributor Planning モデルがすでに含まれている Excel ブックから Contributor Web サイトにログオンすると、中央サーバー バージョンの最新の Planning モデルと最新データが、開いている Excel ブックの Excel カスタマイズ設定と結合されます。

その後、アクティブ セッションによってデータを回復し、データや Excel のカスタマイズ設定を追加したり変更したりできます。

テンプレート、形式、式

テンプレート、形式、式を使用する際の推奨事項について説明します。

Contributor セルにリンクする個人の Planning データには別個のワークシートを使用する

Contributor キューブを含むワークシートには、ビューの再配置によりさまざまな変更が加えられます。このようなワークシート上にある非 Contributor データや Excel 形式は、Contributor キューブの方向に伴って移動します。

このようなワークシート上の非 Contributor セルに個人の Planning データを入力しておく、方向の変更に伴ってデータが回転し、見えたり見えなくなったりします。また、ビューで行と列の入れ替えが行われると、データの行と列も入れ替わってしまいます。

データが常に表示され、「回転する」Contributor キューブを含むワークシートに影響を与えるような変更が加えられたとしても、そのような変更の影響を受けることのない別個のワークシートに個人のデータを入力することを推奨します。

Excel ベースのテンプレートを Contributor Planning モデルに柔軟に対応させる

Contributor のカスタム式を使用して D-List アイテム名の変更に対応します。D-List アイテムの名前はセルに入力するのではなく、Contributor のタイトル セルから名前をコピーし、Excel のターゲット セルに貼り付けます。

Contributor for Excel によって、Planning の D-List アイテムにリンクする式(=ContributorCache)が作成されるため、中央の Planning モデルでアイテム名が変更されると、ターゲット セルも自動的に変更されます。

Contributor のカスタム式を使用して、Planning 値の変更に対応します。Contributor セルから[コピー先の位置]コマンドを使用して、Excel のターゲット セルに値を貼り付けます。アドインによって、多次元 Planning 値にリンクする式(=CCell)が作成されるため、中央の Planning モデルで値が変更されると、ターゲット セルも自動的に変更されます。

Contributor セルでカスタム形式を使用する

各セルで Contributor for Excel のカスタム形式を使用できます。

Contributor for Excel のカスタム形式を使用する際は、次の点に留意してください。

- Contributor 管理コンソールに設定されている標準の Contributor のフォントおよび塗りつぶしの色を使用しない。詳細については、『Contributor Administration Guide』を参照してください。
- 保持適用中のセルには形式を適用しない。保持が解除されたときに、セルの形式が、保持が適用される前の色に戻らなくなります。

Visual Basic とマクロ

Excel では、VBA マクロやオートメーション コントローラ、アドインを使ってユーザーが動作を拡張できるようになっています。しかし予期しない結果が伴う可能性もあるため、Excel 用 Contributor アドインによる Excel の機能の拡張は、すべて自己責任において行ってください。Cognos では、Contributor for Excel をインストールしたときに、Cognos 以外が作成した拡張機能が適切に動作するかどうかについて保証することはできません。

ただし、ワークシートを操作するボタン マクロなど、単純な 1 回限りの操作を実行するマクロは動作すると考えられます。また、Contributor Planning モデルが格納されていないブックで作業しているときには、Contributor for Excel はほとんど機能しないようになっています。したがって、Cognos 以外が作成した機能拡張は、Planning ブックで作業しているときよりも非 Planning ブックで作業しているときのほうが期待どおりに動作する可能性が高いといえます。

Contributor for Excel は、Contributor Export for Excel など、他の Cognos アドインと共存できます。

アドインは Excel のコピー内にインストールされますが、アドインがアクティブになるのは、Contributor Web サイトにログオンしたとき、または Contributor Planning モデルを含む保存済みの Excel ブックをロードしたときのみです。

安全な Web サイト アクセス

eTrust® SiteMinder などの Web サイト認証ツールを実装している企業では、Contributor for Excel を使用する場合に、管理者が Contributor アプリケーションの URL に「?=smforms」を追加する必要が生まれる場合があります。これは、セキュア Web サイト認証ツールによって、ポップアップのダイアログ ボックスが使用されたり、ユーザーがログオン Web ページにリダイレクトされることがあるからです。

URL の最後に「?=smforms」を追加すると、Contributor for Excel に組み込まれている自動 Web サイト モニタリング ロジックが無効になります。このロジックは、ユーザーが正当な Contributor Web サイトを閲覧したかどうかを確認するロジックです。

管理者は可能な限り、URL に「?=smforms」を追加せずに Contributor Web サイトを閲覧できるようにする方法を模索してください。これは、シームレスに認証を行うものから、ダイアログ ボックスをポップアップするもの、ログオン Web ページにリダイレクトするものまで、サードパーティのセキュア Web サイト プロバイダの多くがさまざまな認証モードを採用しているからです。

重要: URL に「?=smforms」を追加すると検証ロジックが無効になるため、ユーザーが別の Web サイトも閲覧できるようになります。

第 6 章:トラブルシューティング

この章では、トラブルシューティングが必要になる可能性がある問題について、その原因と対処方法について説明します。

拡張機能をダウンロードできない

最初に拡張機能を有効にすると、コンピュータへのダウンロードが一度だけ必要であることを示すメッセージが表示されます。このダウンロードに同意しても何も起こらない場合は、必要なファイルが格納されている拡張機能の CAB ファイルが Cognos 8 Planning – Contributor 管理コンソールで正しく設定されていない可能性があります。ダウンロードが停止しているのはそのためです。

CAB ファイルが、Contributor Web サイトのコントロール用フォルダ (“<インストール先>\webcontent\contributor\CONTROLS”) にコピーされていることを確認します。

Microsoft SMS などの自動ソフトウェア配信システムを使用してクライアント ソフトウェアが配信されている場合や、Contributor グリッド以外の方法で拡張機能がインストールされるようにネットワーク管理者が指定している場合には、この説明は当てはまりません。

[データの取得]のトラブルシューティング

[データの取得]の使用中に問題が発生する場合があります。ここでは、トラブルシューティングに役立つ情報を説明します。

ターゲット ディメンションのアイテムにアクセスできない

ソース ディメンションがターゲット ディメンションに手動でマッピングされていて、ターゲット ディメンションのアイテムにアクセスできない場合は、ターゲット アイテムがモデルから削除されているか、またはアクセス テーブルを使用して非表示になっている可能性があります。

この問題を解決するには、ソース ディメンションのアイテムを別のターゲット ディメンションのアイテムにマッピングするか、問題となっている手動で行ったマッピング エントリを削除します。これらのディメンションに対してアクセス権があるかどうかを確認します。

ターゲット キューブのディメンション アイテムにアクセスできない

[データの取得]がキューブのディメンション アイテムにアクセスできないことを示すエラー メッセージが表示される場合は、ターゲット ディメンションがモデルから削除されたか、またはアクセス テーブルを使用して非表示になっている可能性があります。

この問題を解決するには、ロード定義を編集し、ソース ディメンションが余分なディメンションとして管理されるようにするか、または別のターゲット ディメンションにマッピングします。また、ターゲット ディメンションに対するアクセス権も確認します。

Contributor から Contributor へのロードに余分なソース ディメンションがある

Contributor から Contributor へのロードに余分なソース ディメンションがあることを示すエラー メッセージが表示される場合は、余分なソース ディメンションがロードに存在している可能性があります。モデルから削除された、またはアクセス テーブルを使って非表示になっているソース ディメンション アイテムが含まれていることが考えられます。

この問題を解決するには、ロード定義を編集し、この余分のソース ディメンションが管理されるように、そのディメンションの最低 1 つのアイテムを指定に含めるようにします。

ターゲット ディメンションからアイテムが削除された

ターゲット ディメンションからアイテムが削除されたことを示すエラー メッセージが表示される場合は、アイテムがモデルから削除されたか、アクセステーブルを使用して非表示になっている可能性があります。

この問題を解決するには、ロード定義を編集し、この余分のターゲット ディメンションが管理されるように、残りのアイテムから少なくとも 1 つのアイテムを指定に含めます。

余分のターゲット ディメンションがある

余分のターゲット ディメンションがあることを示すエラー メッセージが表示される場合は、ロード定義が正しく完了した後にターゲットキューブに新しいディメンションが追加されたことが原因である可能性があります。この場合、ロードは期限切れまたは未完了とみなされます。

この問題を解決するには、新規に追加されたディメンションが余分のターゲット ディメンションとして管理されるようにロード定義を編集し、そのディメンションの最低 1 つのアイテムを指定に含めるようにします。

Contributor から Contributor へのロードにおいて不足しているソース ディメンションがある

Contributor から Contributor へのロードにおいて不足しているソース ディメンションがあることを示すエラー メッセージが表示される場合は、ソース ディメンションがモデルから削除されたか、またはアクセステーブルを使用して非表示になっている可能性があります。

この問題を解決するには、問題となっているソース ディメンションにマッピングされたターゲット ディメンションが管理されるようにロード定義を編集します。このターゲットディメンションを他のソース ディメンションにマッピングするか、追加のターゲット ディメンションとして処理し、そのディメンションの少なくとも 1 つのアイテムを指定に含めるようにします。

Contributor から Contributor へのロードに追加のソース ディメンションある

Contributor から Contributor へのロードに追加のソース ディメンションがあることを示すエラー メッセージが表示される場合は、ロード定義が正しく完了した後にディメンションがソースに追加されたことが原因である可能性があります。

この問題を解決するには、新しいソース ディメンションを既存のターゲット ディメンションにマッピングするか、余分なソース ディメンションとして処理して、新しいソース ディメンションが管理されるようにロード定義を編集します。

ターゲット キューブが読み取り専用である

ターゲット キューブが読み取り専用であることを示すエラー メッセージが表示される場合は、ユーザーがまだ所有権を取得していないことがほとんどです。

開いているのが承認者の e.List アイテムである場合は、ユーザーがまだ承認者の編集権限を持っていないか、アクセステーブルを使用してすべてのキューブが読み取り専用になっている可能性があります。

Excel用エクスポートのトラブルシューティング

ここでは、Excel 用エクスポートで発生する書式設定に関する問題について説明します。

構造差異

構造差異とは、既存の Excel レポートと、レポートの更新に使用される Contributor 内の現在のモデルデータとの間の矛盾のことです。2 つの構造が異なる場合は、差異について通知し、それを解決するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

このメッセージに対しては次のいずれかが選択可能です。

- [はい]を選択すると、不足しているアイテムがワークシートに挿入されるか、不明なアイテムがワークシートから削除されます。
- [いいえ]を選択すると、ワークシートの差異はそのままになります。
- [キャンセル]を押すと、更新処理が中止されます。

ラミネーション

ラミネーションとは、1 つの軸(行または列)に結合された複数のディメンションのことです。ラミネーションを使用すれば、ページ ディメンションを行か列に移動してレポートのページ数を減らすことができます。

重複するヘッダー セルの結合

ラミネートされたディメンションのヘッダー セルを結合すると、繰り返されている一連のヘッダー名が、結合されていない各セルで繰り返される代わりに、結合されたセルに表示されます。次の例を参照してください。

結合する場合		結合しない場合	
Y		A	Y
B	X	B	X
Y			

用語集

Cognos Planning – Analyst

業務プランを定義するツール。プラン策定、予算編成、予測に必要な主要要素およびコンテンツや、マネージャに配布するテンプレートなどを定義するシステムの構築に使用します。

Contributor 管理コンソール

管理者が使用するツール。Analyst ビジネス モデルの Web 発行、アクセス設定やモデル配布の管理、ユーザーへのモデル ビューの設定などを行います。

D-Link

Analyst とキューブ (あるいはテキスト ファイルや ASCII ファイル) 間で情報をコピーするリンク。

D-List

Cognos Planning におけるディメンションの別名。

e.List

Contributor アプリケーションの構造基盤。e.List は一般的に、原価部門や事業部門など、組織の構造を反映した階層ディメンションです。

アプリケーション

Cognos Planning の Contributor アプリケーション。Contributor アプリケーションを使用して、数百または数千におよぶ Web サーバーからデータを収集、評価します。1 つのアプリケーションを、多数のユーザーが異なる場所から同時に使用できます。

オフライン グリッド

Cognos Planning で、オフライン Contributor アプリケーションの一部へのアクセスに使用するアプリケーション。ネットワークに接続されていない状態で、ユーザーがデータを入力したり表示したりするときに使用します。

拡張機能

Cognos Planning の Contributor 管理コンソールおよび Web クライアントの拡張機能。管理拡張機能とクライアント拡張機能の 2 つのタイプがあります。管理拡張機能は管理コンソールで実行し、クライアント拡張機能は Contributor グリッドの [ツール] オプションで起動します。

キューブ

データの多次元的な表現を含む、物理データ ソース。キューブ内の情報はディメンションに整理され、レポートでのデータの取得やナビゲーションが高速になるように最適化されています。Cognos Planning では、キューブは Contributor クライアント ユーザー インターフェイスのタブに対応します。「D-Cube」も参照してください。

現在の所有者

Contributor で e.List アイテムを編集中のユーザー、または最後に e.List アイテムを開いて編集したユーザー。

更新

Cognos Planning で、既存レポートのデータを変更したり、拡張機能を使用して保存済みのセレクションをエクスポートしたりしたときに発生するプロセス。

作成アイテム

Cognos Planning の Contributor アプリケーションで e.List に入力されたデータ。

承認者

Cognos Planning で、他の承認者またはプランナーにより提出された案を承認するユーザー。

所有者

Contributor で、e.List アイテムを割り当てられ、その編集または承認を許可されたユーザー。e.List アイテムに対する権限は、直接付与される場合と継承される場合があります。

自動按分

与えられた特定の値の変化に比例して各変数値を変更する機能。

調整

Cognos Planning で、ユーザーが Web からアクセスする Contributor アプリケーションのコピーが最新のものであることを確認するプロセス。たとえば、すべてのデータがインポートされているかどうかをチェックします。このプロセスは、[Go to Production] 操作を実行して新しい本番向けのアプリケーションが作成された後に行われます。

追加情報

Cognos Planning において、Contributor のセル、タブ、e.List アイテムに添付された追加の情報。ユーザー注釈と添付ファイルのどちらもこれに該当します。追加情報は、管理リンク、システム リンク、ローカル リンクを使用してコピーできます。

ディメンション

Cognos Planning でキューブの行、列、およびページを作成する基になるディメンション。ディメンションは、損益科目、月、製品、顧客、コスト センターなど関連するアイテムのリストで、計算もすべて含まれます。1 つのディメンションを多数のキューブで使用することができます。

Cognos 8 BI では、ディメンションは製品、日付、市場など、ビジネスの主要な側面に関するデータのおおまかなグループを表します。各ディメンションには、1 つ以上の階層にさまざまなレベルのメンバーが含まれています。また、オプションで算出メンバーのセットを含めることもできます。

発行

Cognos 8 BI では、Cognos 8 サーバーでメタデータを使用できるようにするパッケージを作成することを指します。パッケージ内の情報は、レポートやその他のコンテンツの作成に使用されます。

Cognos Planning では通常、レポート作成に使用できるように、Contributor または Analyst からデータベースにデータをコピーする機能を指します。

プランナー

Cognos Planning で、Web クライアントから Contributor アプリケーションでデータを入力するユーザー。

編集者

Cognos Planning でアイテムを編集しているプランナーや承認担当者のこと。

保護

Cognos Planning で、セルにデータが入力されるのを防止する機能。ただし、D-Link 経由のデータ転送は、保護されたセルへも適用されます。

保持

Cognos Planning で、セルが自動按分の影響を受けないように保護する機能。

ロック

Cognos Planning で、直接入力または D-Link を通してセルへデータが入力されるのを阻止する機能。

索引

A

Add コマンド, [21](#)

C

Cognos Planning – Analyst

定義, [51](#)

Contributor, [7](#)

Microsoft Excel でデータを表示する, [11](#)

データを Microsoft Excel ゾーンにリンクする, [18](#)

ワークフロー画面, [7](#)

Contributor Microsoft Excel 式, [19](#)

更新する, [20](#)

複数の Contributor ゾーン セルに入力する, [20](#)

Contributor Web サイトへのログオン

カスタマイズ設定, [44](#)

Contributor 管理コンソール

定義, [51](#)

Contributor ゾーン, [11](#)

Contributor にログオンする

オンライン モード, [44](#)

Contributor へのログオン

Excel のカスタマイズ設定を使用しない, [44](#)

D

Decrease コマンド, [21](#)

Divide コマンド, [21](#)

D-Link

定義, [51](#)

D-List

定義, [51](#)

E

e.List

定義, [51](#)

e.List アイテム, [8](#)

却下する, [30](#)

承認する, [30](#)

e.List アイテムを承認する, [30](#)

却下する, [30](#)

編集する, [30](#)

Excel ゾーン, [10](#)

G

Global Customer Services Web サイト, [6](#)

Grow コマンド, [21](#)

I

Increase コマンド, [21](#)

K

K コマンド, [21](#)

M

Microsoft Excel データ

Contributor ゾーンにリンクする, [19](#)

Multiply コマンド, [21](#)

M コマンド, [21](#)

P

Percent コマンド, [21](#)

Power コマンド, [21](#)

R

Reset コマンド, [21](#)

S

Subtract コマンド, [21](#)

V

Visual Basic とマクロ, [45](#)

Z

Zero コマンド, [21](#)

あ

アプリケーション

定義, [51](#)

安全な Web サイト アクセス, [46](#)

い

入れ替える

行と列, [12](#)

印刷する

データ, [29](#)

お

オフライン グリッド

定義, [51](#)

索引

オフライン モード

保存された Excel ブックを開く, [43](#)

オブジェクトを非表示にする, [9](#)

オンライン モード

Contributor にログオンする, [44](#)

オートフィルタ, [9](#)

か

拡張機能

定義, [51](#)

完了, [7](#)

関連マニュアル, [5](#)

き

却下, [8](#)

却下する

e.List アイテム, [30](#)

データ, [30](#)

キューブ

定義, [51](#)

行と列

入れ替える, [12](#)

行と列を入れ替える

ディメンション, [12](#)

ビュー, [12](#)

く

クイック コマンド, [20](#)

コピー コマンド, [21](#)

データ入力コマンド, [21](#)

グラフ

追加する, [26](#)

グラフィック

追加する, [26](#)

グラフをドラッグする, [9](#)

グループ化, [9](#)

け

形式, [44](#), [45](#)

現在の所有者

定義, [51](#)

こ

更新, [41](#)

定義, [51](#)

更新する

Contributor Microsoft Excel 式, [20](#)

個人の Planning データ用の別個のワークシート, [44](#)

コピー コマンド, [21](#)

コピー先の位置コマンド, [18](#)

コピー先の相対位置コマンド, [18](#)

コピーする

Contributor 式を Microsoft Excel ゾーンにコピーする, [18](#)

互換性のない機能, [9](#)

ゴール シーク, [9](#)

さ

再配置する

ビュー, [12](#)

作成アイテム, [7](#)

定義, [52](#)

サポート

窓口, [6](#)

算出セル, [16](#)

データを入力する, [16](#)

し

式, [44](#)

Contributor Microsoft Excel, [19](#)

承認者

定義, [52](#)

所有者

定義, [52](#)

進行中, [7](#)

自動按分, [16](#)

定義, [52](#)

情報

入手する, [6](#)

せ

セル

検証する, [15](#)

注釈する, [23](#), [24](#)

メモを追加する, [23](#), [24](#)

ゼロ

行内のゼロを非表示にする, [12](#)

ページ内のゼロを非表示にする, [12](#)

列内のゼロを非表示にする, [12](#)

ワークシート内のゼロを非表示にする, [12](#)

そ

挿入する

グラフ, [26](#)

チャート, [26](#)

た

タブ

注釈する, [23](#), [24](#)

メモを追加する, [23](#), [24](#)

ち

チャート

追加する, 26

注釈

リンクを追加する, 24

注釈する

データ, 23, 24

調整

定義, 52

著作権資料

複製する, 6

つ

追加情報

定義, 52

表示と編集, 25

ローカル リンクを使用して移動する, 26

追加する

グラフィック, 26

注釈, 23, 24

注釈にリンクを追加する, 24

メモ, 23, 24

メモにリンクを追加する, 24

ツリー

ワークフロー画面, 7

て

添付ドキュメント, 24

添付する, 25

テンプレート, 44, 45

保存する, 28

ディメンション

入れ替える, 12

行と列を入れ替える, 12

定義, 52

ディメンションをマッピングする

マッピングされていないターゲット ディメンション, 38

データ

Microsoft Excel で表示する, 11

印刷する, 29

却下する, 30

検証する, 15

承認する, 30

注釈する, 23, 24

提出する, 29, 30

入力する, 14

表示する, 11

編集する, 30

メモを追加する, 23, 24

リセットする, 28

データ入力コマンド, 21

データの検証, 15

データの検証コマンド, 15

データの取得, 16

データの整合性

適用する, 15

データを提出する, 29, 30

データを入力する, 14

クイック コマンド, 20

検証する, 15

コピー コマンド, 21

算出セル, 16

データ入力コマンド, 21

と

トラブルシューティング

Contributor から Contributor へのロードにおいて不足しているソース ディメンションがある, 48

Contributor から Contributor へのロードに追加のソース ディメンションがある, 48

Contributor から Contributor へのロードに余分なソース ディメンションがある, 47

ターゲット キューブが読み取り専用である, 48

ターゲット キューブのディメンション アイテムにアクセスできない, 47

ターゲット ディメンションからアイテムが削除された, 48

ターゲット ディメンションのアイテムにアクセスできない, 47

余分のターゲット ディメンションがある, 48

ドキュメントの添付, 24

ドキュメントを添付する, 25

に

入手する、情報, 6

入力する

複数の Contributor ゾーン セル, 20

ね

ネットワークに再接続する, 11

は

発行

定義, 52

ひ

非表示にする

ゼロ, 12

表

ワークフロー画面, 7

表示する

Microsoft Excel で Contributor データを表示する, 11
データ, 11

索引

複数のブック, 13
複数のワークシート, 13
保存されたテンプレートを使用してデータを表示する, 14
ライブ データ, 11

開く
保存された Excel ブックをオフライン モードで開く, 43

ビュー
行と列を入れ替える, 12
再配置する, 12
変更する, 12

ふ

ファイルからのロード, 15
ファイルへの保存, 16
複数の Contributor ゾーン セル
入力する, 20
複数のブック
表示する, 13
複数のワークシート
表示する, 13
複製する、著作権資料, 6
プランナー
定義, 52

へ

変更する
ビュー, 12
ページ ディメンション, 12
変更の履歴, 9
編集者
定義, 52
編集する
データ, 30
ベスト プラクティス, 5
ページ ディメンション
変更する, 12

ほ

保護, 9
定義, 52
保持, 16
定義, 53
適用する, 17
保存されたテンプレート
データを表示する, 14
保存されたドラフト, 43
保存されたブック
サーバーにロードする, 27
操作する, 27

保存する
テンプレート, 28

ま

マクロと Visual Basic, 45
マルチ e.List アイテム ビュー, 8

み

未開始, 7
未完了, 7

も

モデル
注釈する, 23, 24
メモを追加する, 23, 24

ら

ライブ データ
表示する, 11

り

リセットする
データ, 28
リンク
注釈に追加する, 24
メモに追加する, 24
リンクする
Contributor データを Microsoft Excel ゾーンにリンクする, 18
Microsoft Excel データから Contributor ゾーンにリンクする, 19

れ

列と行
入れ替える, 12

ろ

ロック
定義, 53
ロック中, 7
ローカルに保存されたブック
サーバーにロードする, 27
操作する, 27
ローカル リンク
追加情報を移動するために使用する, 26
ロードする
ローカルに保存されたブックをサーバーにロードする, 27

わ

ワークシート

注釈する, [23](#), [24](#)メモを追加する, [23](#), [24](#)ワークフロー, [43](#)ワークフロー画面, [7](#)e.List アイテム, [8](#)作成アイテム, [7](#)承認, [7](#)ツリー, [7](#)表, [7](#)マルチ e.List アイテム ビュー, [8](#)ワークフロー ステータス, [11](#)